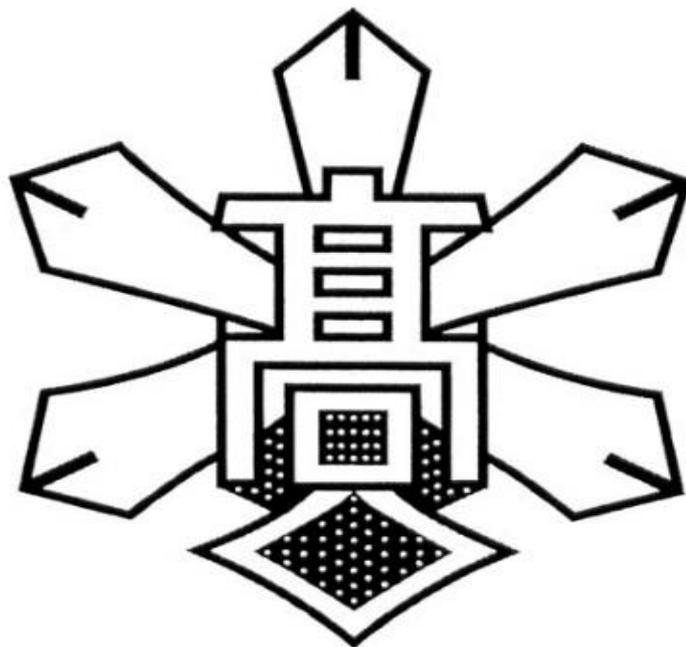


令和2・3年度

介護総合演習・介護実習

ガイドブック



氏名 _____

和歌山県立有田中央高等学校 総合学科 福祉系列

目次

I 介護総合演習の概要	p 3
1 介護総合演習とは.....	p 3
2 介護総合演習の内容.....	p 3
3 介護総合演習の年間計画.....	p 4
II 介護実習の理解	p 5
1 介護実習とは.....	p 5
2 介護実習と介護福祉士資格取得時の到達目標.....	p 5
3 介護実習の概要.....	p 7
4 介護実習の場の理解.....	p 8
5 多職種協働の理解.....	p 11
6 地域とのつながりの理解.....	p 12
7 実習施設ごとの目標及び実習内容.....	p 13
8 介護実習に係る書類.....	p 15
9 実習施設ごとの展開.....	p 16
10 実習指導とカンファレンス.....	p 18
III 介護実習の事前学習	p 21
1 生活支援技術の手順と留意点.....	p 21
2 レクリエーションの意義と留意点.....	p 30
3 介護過程の展開.....	p 31
4 感染症について.....	p 34
5 介護実習に必要な漢字.....	p 38
IV 介護実習中の留意点	p 42
1 実習生としての態度.....	p 42
2 実習施設への交通.....	P43
3 服装・身だしなみ.....	P43
4 健康管理.....	P44
5 事故等の対応.....	P44
6 実習の欠席や警報発令時の対応.....	P44
V 介護実習記録	P46
1 目的と意義.....	P46
2 心得.....	P46
3 書き方と取り扱い.....	P46
4 介護実習目標の立て方.....	P48
VI 介護実習壮行会	P50
VII 介護実習の自己評価	P51

VII	介護実習の事後学習	P55
1	お礼状の作成	P55
2	介護実習Ⅰのまとめと報告書作成	P58
3	介護実習Ⅱのまとめと報告書作成	P60
別紙 1	介護実習壮行会 介護実習Ⅰ	P62
別紙 2	介護実習壮行会 介護実習Ⅱ	P64
別紙 3	実習生個人票【2学年】	P66
別紙 4	実習生個人票【3学年】	P67
別紙 5	介護実習オリエンテーション記録	P68
別紙 6	レクリエーション実施計画書	P69
別紙 7	中間カンファレンスのまとめ	P71
別紙 8	最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ	P72
別紙 9	最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ	P74
別紙 10	介護実習項目チェックリスト	P76
別紙 11	介護実習記録 介護実習 A・B	P78
別紙 12	介護過程記録 介護実習 C	P79
別紙 13	介護過程記録 NO,1（フェイスシート）	P80
別紙 14	介護過程記録 NO,2（アセスメントシート）	P81
別紙 15	介護過程記録 NO,3	P82
別紙 16	介護実習出席簿（2学年）	P84
別紙 17	介護実習出席簿（3学年）	P85
別紙 18	介護実習Ⅰ評価表（介護実習 A・認知症対応型老人共同生活援助事業）	P86
別紙 19	介護実習Ⅰ評価表（介護実習 A・通所介護）	P87
別紙 20	介護実習Ⅰ評価表（介護実習 B）	P88
別紙 21	介護実習Ⅱ評価表	P89
別紙 22	健康チェックシート	P90
別紙 23	令和2年度実習先一覧	P91
別紙 24	介護実習Ⅰのまとめ	P92
別紙 25	介護実習Ⅰ報告書	P97
別紙 26	介護実習Ⅱのまとめ	P100
別紙 27	介護実習Ⅱ報告書	P103

I 介護総合演習の概要

1 介護総合演習とは

「介護総合演習」は、学習時間が120時間であり、校内で学ぶ各科目と「介護実習」をつなぐものであることから、「介護実習」の450時間と一体的に学習することになる。これらの時間を合わせると、介護福祉士養成課程の1,800時間の3分の1余りに相当し、介護福祉士の養成教育における「介護総合演習」と「介護実習」の重要性を示している。

「介護実習」での学びは、実習の期間だけではなく、「介護総合演習」の時間に行う事前学習と事後学習の充実が必須となる。「介護総合演習」における実習の事前学習は、他の福祉の科目で学んだ知識や技術を統合化して「介護実習」で発展させることができるように準備を行い、介護実習での貴重な経験をよりよい学びにするために行う。また、実習終了後は振り返りにより課題を明確化し、介護に対する考察を深め、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。また「介護総合演習」では、「介護実習」の体験がそのまま教材として活用され、実践を振り返ることで、介護の楽しさや面白さが実感できる科目である。

2 介護総合演習の内容

【介護実習の事前学習】

「介護実習」の教育効果を上げるため、実習施設やそこで働く専門職についての理解を深めるとともに、各科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる学習を行う。

*具体的には

- ・実習施設等の理解
- ・介護職員や他の職種の理解
- ・生活支援技術の手順と留意点
- ・レクリエーションの意義
- ・感染症について
- ・介護実習に必要な漢字
- ・介護過程の展開（介護実習Ⅱ）
- ・介護実習の目的の理解と具体的な目標の確認
- ・介護実習中の留意点
- ・介護実習記録記載の留意点
- ・実習生個人票の作成
- ・介護実習壮行会での発表

【介護実習の事後学習】

「介護実習」を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にする。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、専門職としての態度を養う内容とする。

*具体的には

- ・お礼状の作成
- ・介護実習のまとめの作成
- ・介護実習報告書（事例報告）の作成
- ・介護実習報告会での発表

3 介護総合演習の年間計画

2 学年

4～5月	10回	1. 介護実習の意義, 介護実習の概要, 介護実習 I の目的・目標の理解 2. 介護実習に関する施設及び実習先の理解
5～7月	18回	3. 記録の意義, 介護実習記録の書き方 4. 実習生個人票の作成 5. 介護実習の事前学習 6. 介護実習に必要な様式の準備と理解 7. 介護実習の心得と介護実習における留意事項の理解 8. 介護実習の評価についての理解 9. 介護実習壮行会
7～9月 介護実習 I		
9～11月	10回	10. お礼状の作成 11. 介護実習 I のまとめの作成
11～1月	15回	12. 介護実習 I 報告書の作成と介護実習 I 報告会の準備 13. 介護実習 I 報告会
1～3月	10回	14. 介護実習 II の目的・目標の理解(1) 15. 介護過程の理解(1)

3 学年

4～5月	4回	1. 介護実習 II の目的・目標の理解(2) 2. 介護過程の理解(2) 3. 実習先の理解
5～6月	8回	4. 介護実習記録・介護過程記録用紙の書き方 5. 実習生個人票の作成 6. 実習に必要な様式の準備 7. 介護実習の心得と実習における留意事項の確認 8. 介護実習の評価についての理解 9. 介護実習壮行会
7～9月 介護実習 II		
9～11月	10回	10. お礼状の作成 11. 介護実習 II のまとめの作成
12～3月	10回	12. 介護実習 II 報告書の作成と介護実習 II 報告会の準備 13. 介護実習 II 報告会

Ⅱ 介護実習の理解

Ⅰ 介護実習とは

「介護実習」は、介護の実践現場で実習指導者の助言や指導を受けながら、各科目で学んだ介護の知識・技術・価値を統合して、利用者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する実践的な学習である。そして、利用者の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を展開する能力を養うことが求められている。

「介護実習」が行われるのは、介護福祉士はもちろん、多くの保健医療福祉の専門職が業務に従事し、多職種による協働・連携によるチームケアが行われている実際の社会である。また、利用者はもちろん、家族との関係や地域の人々や他の機関との関係もある。そのような場所を学びの場として提供されることに感謝し、実習生として誠実に積極的に学ぶ態度や社会人としての基本的なマナーが求められる。

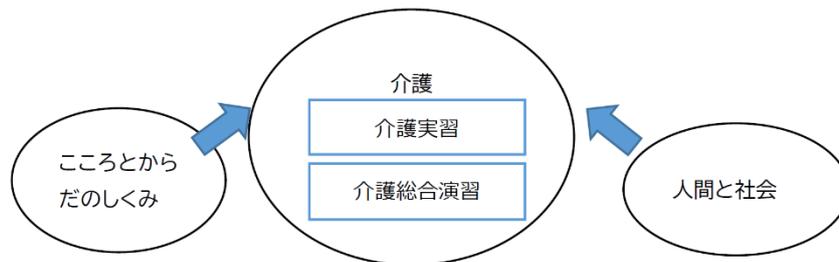
また、「介護実習」は、利用者の生命、生活、人生、不安や苦悩、希望や安心、生きがい、終末期や死といったことを利用者と共に共有し、自分の死生観、人生観、介護福祉観などについて考えを深める貴重な機会となる。そこでは、専門職としての高い倫理性の保持と温かい思いやりのある態度、利用者から学ぶ謙虚な姿勢が求められている。

【介護実習のねらい】（厚生労働省）

- (1) 地域におけるさまざまな場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
- (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

2 介護実習と介護福祉士資格取得時の到達目標

厚生労働省が2007年に示した「介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて」では、資格取得時に求められる介護福祉士養成の到達目標として11項目が明記された。これらの到達目標は、介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力として、資格取得時の介護福祉士に求められている。この11項目を達成するために、3領域（「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」）を中心とした教育体系となっている。「介護総合演習」と「介護実習」は領域「介護」の中核となる科目で、3領域の知識と技術を統合して学ぶためのさまざまな要素が連なっている。介護福祉士養成の到達目標に対して「介護実習」ではどのようなことに留意して取り組むかを、それぞれ(1)～(3)に示している。



1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける
 - (1) 利用者に共感的な態度で接する。
 - (2) 利用者の立場に立ち、その背景や思いを考える。
 - (3) 利用者の表情や態度をよく観察し、その感情や思いを察する。
2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
 - (1) 利用者の安全・安楽に留意した生活支援技術を実践する。
 - (2) 利用者の個別性をふまえた生活支援技術を実践する。
 - (2) 利用者の自己選択・自己決定を基本とした生活支援を実践する。
3. 介護実践の根拠を理解する
 - (1) 疾病や障害に関する基礎的な知識をふまえる。
 - (2) 発達や老化に関する基礎的な知識をふまえる。
 - (3) 認知症に関する基礎的な知識をふまえる。
4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる
 - (1) 利用者の意欲を引き出すように関わる。
 - (2) 利用者の潜在能力について理解し、生活支援の中でどのように活用できるか考える。
 - (3) 利用者の思いを理解し、自立を支援するように関わる。
5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
 - (1) カンファレンスで自分の考えを述べる。
 - (2) カンファレンスで他の専門職に質問する。
 - (3) 職員に利用者の状態を適切に伝える。
6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる
 - (1) 介護保険制度のしくみとサービス内容をふまえる。
 - (2) 障害者総合支援制度のしくみとサービス内容をふまえる。
 - (3) 実習施設の概要や事業内容を理解する。
7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養う
 - (1) 利用者に関わる他の職種とその専門機能を理解する。
 - (2) チームにおける介護職員の役割を理解する。
 - (3) 主体的に報告・連絡・相談を行う。
8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
 - (1) 介護過程の意義とその流れについて理解する。
 - (2) 利用者の情報収集とアセスメントを適切に行う。
 - (3) 利用者に応じた介護計画を立案し、可能な範囲で実践し評価する。

※主に「介護実習Ⅱ」で学習する。
9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける
 - (1) 利用者の話を傾聴、受容、共感の態度で聴く。
 - (2) 利用者の状況や身体の状態に応じた言語的・非言語的コミュニケーション技術を活用する。
 - (3) 実習指導者（担当の施設職員）や他の職員と円滑にコミュニケーションを図る。
10. 的確な記録・記述の方法を身につける
 - (1) 誤字・脱字がなく、適切に表現する。
 - (2) 事実を客観的にわかりやすく記述する。
 - (3) 記録の意義や取り扱いについて理解する。

11. 人権擁護の視点，職業倫理を身につける

- (1) 社会人としてのマナーが身についている。
- (2) 実習生としてのルールを守り，学習者にふさわしい態度で取り組む。
- (3) 利用者の尊厳の保持やプライバシーの保護に留意する。

3 介護実習の概要

「介護実習」は，さまざまな種類の実習施設で基本的な内容を学ぶ「実習施設・事業等Ⅰ」と個々の利用者のニーズに沿った生活支援を行うために介護計画を立てて実践する「実習施設・事業等Ⅱ」の2つに分かれている。2学年で行う「介護実習A」と「介護実習B」は「実習施設・事業等Ⅰ」，3学年で行う「介護実習C」は，「実習施設・事業等Ⅱ」に該当する。「介護実習」では，慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が，その人らしさを維持しながら生活する状況について学ぶ。また，個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。そして，利用者の課題を明確にしたうえで，利用者ごとの介護計画の作成，実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し，利用者の状況に応じて生活支援技術を適切に使う必要性を理解し，知識や技術を統合して生活支援サービスが提供できる実践力を習得する。

【有田中央高等学校の介護実習の構成】

実習施設・事業等の区分	実習施設・事業等Ⅰ		実習施設・事業等Ⅱ
実習名	介護実習A 地域での実習	介護実習B 基礎的な実習	介護実習C 実践力の養成と介護過程の展開
実習時期	第2学年7～8月	第2学年7～8月	第3学年7～8月
実習日数	16日	8日	28日
実習の場	通所介護事業所 認知症対応型老人共同 生活援助事業所	介護老人福祉施設 ／介護老人保健施設	介護老人福祉施設／介護老人保健施設
達成課題	利用者の生活の場である多様な介護現場において，利用者理解を中心とし，これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践，多職種協働の実践，介護技術の確認等を行う		一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で，利用者ごとの介護計画の作成，実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する

4 介護実習の場の理解

「介護実習」では、実習の行われる施設・事業所の働きや役割についてあらかじめ学習して知る必要がある。次の1～10の施設・事業所についてまとめよう。

1 訪問介護

利用する人 (対象)	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受けた人が対象となる。また、要支援1・2の認定を受けた人は介護予防訪問介護の対象である。
サービスの概要	訪問介護員が利用者の居宅を訪問し、家事援助、身体介護、相談援助、その他の生活全般にわたる支援を行う。主に日中訪問してサービスを提供する事業所と、早朝、夜間、深夜時間帯も含めて24時間対応して訪問サービスを提供する事業所がある。
職員構成	①管理者 ②サービス提供責任者 ③訪問介護員

2 デイサービスセンター(通所介護)

利用する人 (対象)	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受けた人が対象となる。また、要支援1・2の認定を受けた人は介護予防通所介護の対象である。
サービスの概要	デイサービスセンターなどに通い、その施設において入浴、排泄、食事の介護、生活などに関する相談及び助言、健康状態の管理、その他居宅要介護者に必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う。
職員構成	①管理者 ②生活相談員 ③看護職員 ④介護職員 ⑤機能訓練指導員

3 通所リハビリテーション(デイケア)

利用する人 (対象)	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受け、医師がその治療の必要を認めた人が対象となる。また、要支援1・2の認定を受けた人は介護予防通所リハビリテーションの対象である。
サービスの概要	在宅で生活している利用者が介護老人保健施設、病院、診療所等に通い、心身の機能の維持回復や日常生活の自立を助けるために、理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーションを受ける。
職員構成	①管理者 ②医師 ③理学療法士、作業療法士もしくは言語聴覚士または看護職員もしくは介護職員

4 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)

利用する人 (対象)	要介護度3以上の認定を受けた65歳以上の第1号被保険者および40～64歳の第2号被保険者(特定疾病のため介護が必要)で、常に介護が必要で、自宅では介護ができない方が対象である。
サービスの概要	施設サービス計画に基づき、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行う。
職員構成	①医師 ②生活相談員 ③介護職員または看護職員 ④栄養士 ⑤機能訓練指導員 ⑥介護支援専門員

5 介護老人保健施設

利用する人 (対象)	要介護1～5までの65歳以上の第1号被保険者と特定疾病により要介護状態となった40～64歳の第2号被保険者で、病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象となる。
サービスの概要	病院と施設、あるいは病院と在宅の中間施設である。2018年4月から、①リハビリテーションを提供することで機能維持・機能回復をになう施設、②在宅復帰支援と在宅療養支援のための地域の拠点となる施設、と定義が変わっている。施設サービス計画に基づいて、看護、医療的管理の下における介護および機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行う。
職員構成	①医師 ②薬剤師 ③看護職員または介護職員 ④支援相談員 ⑤理学療法士または作業療法士 ⑥栄養士 ⑦介護支援専門員

6 養護老人ホーム

利用する人 (対象)	65歳以上で、環境上の理由および経済的理由により在宅において養護を受けることが困難な人である。
サービスの概要	生活環境や経済的に困窮した高齢者を養護し、社会復帰させる施設である。生活支援及び身体介護、相談・調整を行う。
職員構成	①施設長 ②医師 ③生活相談員 ④支援員 ⑤看護職員 ⑥栄養士

7 グループホーム(認知症対応型老人共同生活援助事業所)

利用する人 (対象)	主治医から認知症の診断を受けていること、要介護・要支援認定が要支援2以上であること、共同生活が可能であること、グループホームのある市町村に住んでいることが利用の要件となる。
サービスの概要	入所定員は5人以上9人以下である。介護サービスを受けながら、家庭的な雰囲気と地域住民との交流の下で、共同で生活する場所。食事・排泄・入浴の介護・掃除、洗濯など身の回りの衛生管理、健康管理、リハビリテーション、レクリエーションなどが行われる。利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を住み慣れた地域で継続できるよう支援することが目的である。
職員構成	①代表者 ②常勤管理者 ③計画作成者 ④介護従事者

8 小規模多機能型居宅介護

利用する人 (対象)	市町村に住所を有し、自宅で生活をしていて、要支援1～要介護5までの認定を受けている人
サービスの概要	地域で自立した日常生活が送れるよう、「通い」を中心に泊まり、訪問を組み合わせ合わせた介護サービスを提供する。「通い」「泊まり」「訪問」のそれぞれの場面で、食事、排泄、入浴といった日常生活の介護を行う。
職員構成	①代表者 ②常勤管理者 ③介護支援専門員 ④介護職員・看護職員

9 軽費老人ホーム(ケアハウス)

利用する人 (対象)	60歳以上で、身体機能の低下等により自立した日常生活を営むことについて不安があると認められる者であって、家族による援助を受けることが困難な者である。ある程度自分の身の周りのことができる人を対象としている。
サービスの概要	生活相談、入浴サービス、食事サービスの提供を行うとともに、車いすでの生活にも配慮した構造を有する「ケアハウス(C型)」、食事の提供や日常生活上必要な便宜を供与する「A型」、自炊が原則の「B型」がある。介護保険制度の居宅サービス(訪問介護・通所介護)を利用することができる。食事の提供、入浴等の準備、相談および援助、社会生活上の便宜の供与、その他の日常生活上の便宜の供与を行う。
職員構成	①施設長 ②生活相談員 ③介護職員 ④栄養士 ⑤調理員

5 多職種協働の理解

異なる専門性を持つ多職種が、それぞれの職種の能力を活用して対象者の生活支援を行うことで、より質の高いケアにつながる。それぞれの職種の専門性を理解するとともに、介護福祉士の専門性をより深く学習し、個別支援のあり方や職種間での連携・協働を理解することが必要である。

【多職種の業務について】

医師	病気・怪我の診断や治療・予防，リハビリテーションを行う。
看護師	医師の診察・指示に基づいて，患者の診療を補助したり，患者が入院生活を過ごしやすいよう日常生活の援助や看護を行う。具体的には，食事・排泄の補助，患者移送，検温や入浴の介助，体位交換，記録，巡回，ベッドメイキングなどである。
理学療法士	病気やケガで身体に障害を抱える人が，主に「起きる」「立つ」「歩く」といった基本的な動作を回復し，身体機能全般が向上するよう，各種療法を使ってサポートを行う。その手段には，運動療法，水中療法，温熱療法，電気・光線療法，マッサージなどがある。
作業療法士	心身に障害を抱える人を対象に，リハビリテーションを行い，応用動作能力・社会的適応能力を高めて，社会復帰を促す。日常生活の動作訓練，手芸・陶芸・園芸・絵画などの創作活動や，音楽・ゲーム・スポーツを利用した機能回復など，より実生活に近い動作の訓練によるサポートを行う。
言語聴覚士	「話す」「聴く」だけではなく，発声・発音，認知など，言語コミュニケーションに障害を抱えた人の機能回復をめざして指導・訓練を行う。
管理栄養士 栄養士	病気で入院している人や，高齢で食事がとりづらい人など，個人の状態にあわせて食生活の管理を行う。栄養士は主に健康な人を対象として業務を行う。これに対して管理栄養士は，健康な人だけでなく，傷病者や特別の配慮が必要になる人々に対しても栄養指導が行えるだけの高度な専門的知識と技術を持っている。
調理員	病院や学校，介護福祉事業所などでは，管理栄養士・栄養士の作成した献立にもとづいて，利用者の食事をつくる。
歯科医師	虫歯・歯周病の治療や，歯列の矯正，インプラント手術など，口腔内における健康の管理を行う。
歯科衛生士	歯科医師の治療を補佐する。治療をサポートするだけでなく，患者に対して正しい歯磨きの仕方を指導するなど，病気の予防・健康維持も行う。
福祉用具専門相談員	福祉機器や介護用具を購入する際に，上手な選び方や使い方について専門的なアドバイスをする相談員である。
生活相談員	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム），短期入所生活介護（ショートステイ），通所介護（デイサービス）にて入所から生活まで相談援助・指導業務を行う専任の職員（ソーシャルワーカー）である。

支援相談員	介護老人保健施設やデイケアにおいて、相談援助・指導業務を行う専任の職員（ソーシャルワーカー）である。
介護支援専門員	利用者やそのご家族と相談し、どんな介護を必要としているのかを見極め、最適なケアプラン（介護サービス計画書）を作成し、自治体や業者との調整を行う職種である。ケアマネジャーとよばれる。

6 地域とのつながりの理解

【地域における生活】

私たちは、欲しい品物があれば、商店に行って選んで買うことができる。買いものをする店が決まっているという暮らしの中のこだわり、自分の好きなものを買うという自己選択・自己決定は地域において自立して生活するため大切なことの1つの例である。

また、地域での生活に“つながり”は欠かせないものである。多くの人は、家族や近所との関係にとどまらず、地域のさまざまな人（機関）とつながって暮らしている。利用者にもさまざまなつながりがあり、それらは利用者の人生や生活の継続性という視点から尊重すべきものである。買い物の例でいうと、商店で買い物をして会話をすることが利用者にとってどういう意味を持っているのか、商店の人が利用者をどのように支援してくれているのか、つながりを継続するにはどうしたらよいかなどの視点が必要になる。

【地域と実習施設】

「介護実習」を行う施設は地域の中の施設である。行事、ボランティア等の受け入れ、施設職員の地域行事等への参加から、施設と地域のコナがりや施設の地域化及び社会化について理解し、地域と実習施設がどのように支え合っているかを学ぶことが求められる。

施設で生活している人も地域の住民であることを認識し、利用者が地域の中で暮らしているという自覚を持ち続けられるようにすることや実習施設のある地域の特性やその地域ならではの文化や行事を知ることでも介護福祉士の役割の1つである。そして、介護福祉士が利用者と地域を結びつけることで、利用者が地域の一員として生活できるよう配慮する必要がある。「介護実習」では、デイサービスの送迎の機会を利用し地域の様子を観察するように努める必要がある。また、施設や事業所で開催される行事やイベントの企画や運営にも可能であれば参加する。そして、地域で開催されるイベントに参加する利用者に同行し、幅広い視点での生活支援技術について学ぶこともよい経験になる。

【実習施設で学ぶ内容例】

- ・施設の行事などに地域の人たちがどのように関わっているか。
- ・利用者や職員が地域のイベントに参加しているか。
- ・小学生や中学生の体験学習等の受け入れはどうか。
- ・ボランティアの受け入れの状況はどうか。
- ・地域の人たちと共同で行っていること。

7 実習施設ごとの目標及び実習内容

介護実習A

1 認知症対応型老人共同生活援助事業所

実習目標	実習内容
(1) 認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解を深める。 (2) 利用者の生活や生活課題を理解する。 (3) 利用者とは適切にコミュニケーションを図る。 (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する。 (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。 (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。	(1) 施設の役割や業務を、介護実習オリエンテーションやその他の機会に把握する。 (2) 利用者の生活の状況の観察や生活支援技術の実践を通して、生活支援の必要性を学ぶ。 (3) 利用者とは積極的にコミュニケーションを図る中で、利用者の状態や状況に応じ、安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーション技術を学ぶ。 (4) 職員からの情報、利用者の表情や態度などの観察やコミュニケーションを通して心身の状態を把握し、利用者に合った適切な生活支援技術を実践的に学ぶ。 (5) 介護職員の業務を、見学や実践の機会に把握する。他の職種の業務を質問や見学により把握する。他の専門職に報告、相談を行う。地域とのつながりに関する取り組みを、質問、見学および参加等により把握する。 (6) 身だしなみをきちんと整え、適切な言葉遣いやルールを意識し、積極的に行動する。 (7) 誤字・脱字がなく適切な表現で、気づきや考察をふまえわかりやすくまとめられている。

介護実習A

2 通所介護事業所

実習目標	実習内容
(1) 通所介護事業所に対する理解を深める。 (2) 利用者との適切なコミュニケーションを学ぶ。 (3) 集団援助と個別援助のあり方を理解する。 (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を学ぶ。 (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。 (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。	(1) 施設の役割や業務を、介護実習オリエンテーションやその他の機会に把握する。 (2) 利用者とは積極的にコミュニケーションを図る中で、利用者の状態や状況に応じ、安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーション技術を学ぶ。 (3) レクリエーション活動に参加し、利用者の状況に応じて適切に支援を行い、また、企画や進行を適切に行う。 (4) 職員からの情報、利用者の表情や態度などの観察やコミュニケーションを通して心身の状態を把握し、利用者に合った適切な生活支援技術を実践的に学ぶ。 (5) 介護職員の業務を、見学や実践の機会に把握する。他の職種の業務を質問や見学により把握する。他の専門職に報告、相談を行う。地域とのつながりに関する取り組みを、質問、見学および参加等により把握する。 (6)・(7)は同様

3 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（2学年）

実習目標	実習内容
(1) 介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設に対する理解を深める (2) 利用者の生活や生活課題を理解する (3) 利用者と適切にコミュニケーションを図る (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。	(1) 施設の役割や業務を、介護実習オリエンテーションやその他の機会に把握する。 (2) 利用者の生活の状況の観察や生活支援技術の実践を通して、生活支援の必要性を学ぶ。 (3) 利用者と積極的にコミュニケーションを図る中で、利用者の状態や状況に応じ、安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーション技術を学ぶ。 (4) 職員からの情報、利用者の表情や態度などの観察やコミュニケーションを通して心身の状態を把握し、利用者に合った適切な生活支援技術を実践的に学ぶ。 (5) 介護職員の業務を、見学や実践の機会に把握する。他の職種の業務を質問や見学により把握する。他の専門職に報告、相談を行う。地域とのつながりに関する取り組みを、質問、見学および参加等により把握する。 (6)・(7)は同様

4 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（3学年）

実習目標	実習内容
(1) 傾聴・受容・共感の技法を用いて、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを図る。 (2) 安全と安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を実践する (3) 一人の利用者についてICFの視点で全体像をとらえ、アセスメントを行う。 (4) 個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案する。 (5) 介護計画に基づき、適切に生活支援の実践、評価および修正を行う。 (6) 多職種との協働を図る。 (7) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。 (8) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。	(1) 利用者の心身の状態を把握し、傾聴・受容・共感の技法を活用して、安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーション技術を学ぶ。 (2) 職員からの情報、利用者の表情や態度などの観察やコミュニケーションを通して心身の状態を把握し、利用者に合った適切な生活支援技術を実践的に学ぶ。 (3) 利用者の情報を十分に把握し、ICFの視点でよく検討し、生活支援の必要性を理解する。 (4) 実習指導者や職員の指導を受け、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえ、利用者の個性をふまえた介護計画を立案する。 (5) 実習指導者や職員の指導のもと、介護計画に基づいた適切な生活支援を実施し、その結果を、利用者の状態を十分に把握した上で評価する。 (6) 他の職種の業務を、利用者の情報収集やカンファレンスの機会に把握し、報告、相談等を行う。他の専門職に情報提供を行う。 (7) 身だしなみをきちんと整え、適切な言葉遣いやルールを意識し、積極的に行動する。 (8) 誤字・脱字がなく適切な表現で、気づきや考察をふまえてわかりやすくまとめられている。

8 介護実習に関する書類

1 実習前

項目	取り扱い
実習生個人票	<input type="checkbox"/> 担当教員に確認してもらい提出する。
介護実習出席簿・ 介護実習評価表	<input type="checkbox"/> 介護実習出席簿の氏名、実習施設名、実習日を記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習評価表の氏名、実習施設名を記入する。 <input type="checkbox"/> 担当教員に提出し、確認を受ける。
レクリエーション実施 計画書（2学年のみ）	<input type="checkbox"/> 担当教員の指導を受けて作成し、ファイルに挟んでおく。

2 実習中

項目	取り扱い
介護実習出席簿	<input type="checkbox"/> 出席した日に捺印する。 <input type="checkbox"/> 保管場所等は、介護実習オリエンテーション等で実習指導者に確認する。
介護実習オリエン テーション記録	<input type="checkbox"/> 介護実習オリエンテーション記録は、できるだけ初日に実習指導者（施設職員）に提出する。
介護実習記録（毎 日の記録）	<input type="checkbox"/> 介護実習記録は、前日までに「本日の目標」及び「介護実習計画」を記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習記録は、昼の時間と実習後の時間で作成し、その日の実習終了時に実習指導者（施設職員）に提出する
介護実習項目チ ェックリスト	<input type="checkbox"/> 介護実習項目チェックリストは、該当する項目の経験回数を正の字で記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習項目チェックリストから、経験がない又は少ない項目を実習指導者（施設職員）に伝え、できるだけ実施できるようにする。
レクリエーション実施 計画書（2学年のみ）	<input type="checkbox"/> レクリエーション実施計画書を完成し、実施後は成果と課題をまとめ、最終カンファレンスで教員に提出する。
中間カンファレンス （2学年のみ）	<input type="checkbox"/> 中間カンファレンスのまとめを記入して参加する。
介護過程記録用 紙（3学年のみ）	<input type="checkbox"/> 介護過程記録用紙は実習指導者（施設職員）の指導のもと作成し、介護過程の振り返りと一緒に最終カンファレンスで教員に提出する。
最終カンファレ ンス（介護実習反 省会）のまとめ	<input type="checkbox"/> 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめを記入して参加する。 <input type="checkbox"/> 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめは実習終了時に実習指導者（施設職員）に提出する。
介護実習自己評価	<input type="checkbox"/> 自己評価を記入しておき、介護実習終了後に担当教員に提出する。
実習終了時	<input type="checkbox"/> 記録用紙の提出方法を実習指導者（施設職員）に確認する。

3 実習終了後

項目	取り扱い
お礼状	<input type="checkbox"/> 全員が作成し、担当教員に確認してもらい、施設ごとに封筒に入れて郵送する。
介護実習のまとめ	<input type="checkbox"/> 所定の記録用紙に記入し、担当教員に確認してもらい提出する。
介護実習報告書	<input type="checkbox"/> 担当教員の指導を受けて、電子データで作成し、提出する。

9 実習施設ごとの展開

1 介護実習A

認知症対応型老人共同生活援助事業所

実習日	展 開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> 施設の概要を、介護実習オリエンテーション、施設内の見学、実習指導者への質問などにより把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。 利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。 介護職員の利用者に対する生活支援の内容や他の業務を見学や質問を行うことで学び、実習記録にまとめる。
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、気づいたことや指導を受けた内容及び考えたことを実習記録に記載する。 利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する 職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、利用者の心身の状態に応じた生活支援技術を学んだ内容をふまえて実習記録に記載する。 介護実習反省会に向けてまとめを記載した上で、最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことを記録にまとめる。

通所介護事業所

実習日	展 開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> 施設の概要について、介護実習オリエンテーション、施設内の見学、実習指導者への質問などにより把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。 利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。 介護職員の利用者に対する生活支援の内容や他の業務を見学や質問を行うことで学び、実習記録にまとめる。
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、気づいたことや指導を受けた内容及び考えたことを実習記録に記載する。 利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する 施設のレクリエーションへの参加や計画したレクリエーションの実施により、利用者の心身の状態に応じた楽しく過ごしてもらうための支援技術について学び、実習記録に記載する。 職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、利用者の心身の状態に応じた生活支援技術について学んだ内容をふまえて実習記録に記載する。 介護実習反省会に向けてまとめを記載した上で、最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことを記録にまとめる。

2 介護実習B

介護老人福祉施設・老人保健施設

実習日	展 開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none">施設の概要を介護実習オリエンテーション、施設内の見学、実習指導者への質問などにより把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。介護職員の利用者に対する生活支援の内容や他の業務を見学や質問を行うことで学び、実習記録にまとめる。
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none">利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、気づいたことや指導を受けた内容及び考えたことを実習記録に記載する。利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、利用者の心身の状態に応じた生活支援技術について学んだ内容を実習記録に記載する。介護実習反省会に向けてまとめを記載した上で、最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことを記録にまとめる。

3 介護実習C

介護老人福祉施設・老人保健施設

実習日	展 開
1～8 日目	<ul style="list-style-type: none">施設の概要について、介護実習オリエンテーション、施設内の見学、実習指導者への質問などにより把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。介護職員の利用者に対する生活支援の内容や他の業務を見学や質問を行うことで学び、実習記録にまとめる。職員の指導を受けながら生活支援を実践し、利用者の心身の状態に応じた生活支援技術を学んだ内容を実習記録に記載する。実習指導者の指導を受けながら担当する利用者を決定し、担当する利用者とのコミュニケーションを図りながら情報収集を行う。
9～16 日目	<ul style="list-style-type: none">利用者の個別性をふまえたサービスがどのように提供されているか把握する。職員の指導を受けながら生活支援を実践し、利用者の心身の状態に応じた生活支援技術について学んだ内容を実習記録に記載する。担当している利用者のアセスメントを行い、介護過程検討会に向けて記録用紙に記載し、検討会の助言内容をふまえて記録用紙の内容を修正する。
17～28 日	<ul style="list-style-type: none">実習指導者の指導を受けて、担当している利用の介護計画を立案し、それに基づいた生活支援を実施する。また、生活支援の実施について評価し、記録用紙に記載した上で必要があれば計画を修正する。まとめを記載した上で、介護過程検討会や最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、学んだことを記録にまとめる。

10 実習指導とカンファレンス

1 実習指導者による実習指導

- (1) 実習開始前に「介護実習計画書」と「介護実習記録」（「本時の目標」及び「介護実習計画」）を通して指導を受ける。
「介護実習計画書」と「介護実習記録」（「本時の目標」及び「介護実習計画」）をふまえ、自分から実践するためのアドバイスを受ける。
- (2) 実習中に見学や実施を通して指導を受ける。
実習指導者（施設職員）の利用者への関わり方、生活支援技術の方法について、関心を高く持って見学する。
- (3) 実習指導者（担当の施設職員）への質問を通して指導を受ける。
- (4) 介護実習記録や介護過程記録（3年のみ）を通して指導を受ける。
実習指導者（担当の施設職員）が書いてくれているコメント内容をていねいに読み、今後の実習に生かす。
- (5) カンファレンスで指導を受ける。
積極的に自分の考えや困っていることなどを伝える。

2 カンファレンスについて

- (1) 実習初日から当日までに学んだことや気づきなどを整理し、今後の課題を明確にすることを目的とするので、事前に発表内容を整理して記録用紙に記載しておく。
- (2) カンファレンスの中で助言や指導を受けた内容をメモに書いておき、記録用紙にまとめることで、介護実習での学びを深める。
- (3) 他のメンバーに対する指導や助言であっても、メモに書いておき、自分の実習をすすめるにあたり参考になる内容を記録用紙にまとめる。
- (4) カンファレンスでは、自分の意見を持って、自分の言葉で考えや感じたことを発言することが大切である。できるだけ、具体的な発表内容になるよう準備しておく。
- (5) 事前準備として、実習生同士で役割と進行方法を決める。
- (6) 進行方法について
 - ・開会の挨拶を行う。
（介護実習の御礼、最終カンファレンス（介護実習反省会）参加の御礼、発表内容や進行方法の説明など）
 - ・発表は、実習生1人5分程度とする。
 - ・実習指導者（担当の施設職員）及び担当教員からコメントをもらう。
 - ・閉会の挨拶を行う（まとめ、介護実習の御礼、反省会参加の御礼など）

■中間カンファレンス（2学年）

位置づけ	教員が巡回指導時に行うグループ指導を「中間カンファレンス」と呼ぶ。中間カンファレンスでは、実習生が自分の状況を事前に整理しておくことが大切である。
日時	実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
進行方法	実習生が司会進行を務める。
準備資料	資料の準備（事前に「中間カンファレンスのまとめ」を作成しておく。） 【内容】 (1) 介護実習で学んだこと 介護実習を経験して考えたことや感じたことを、その理由を合わせて記入する。施設の概要や介護職員の業務、コミュニケーション、生活支援技術、利用者の心身の状態、利用者の生活の状況などの観点から書く。 (2) 介護実習でうまくいかなかったことやその理由 利用者との関わりや生活支援技術の実施などで、課題になったことをできるだけ具体的に書く。 (3) 介護実習に関して疑問に思うこと 施設の概要や介護職員の業務、コミュニケーション、生活支援技術、利用者の心身の状態、利用者の生活の状況などの観点から書く。 (4) 利用者の生活支援技術について気づいたこと 生活支援技術の実践から学んだことや介護実習で改めて気づいた留意点などを具体的に書く。 (5) 実習目標の達成に向けて努力していることやこれから努力したいこと

■ 最終カンファレンス（介護実習反省会）（2学年）

位置づけ	介護実習の最終的なまとめとして、実習指導者や施設職員、担当教員が参加して指導・助言を行うものである。実習生は介護実習での学びをよく整理し、介護実習の成果と課題が発表できるよう準備してから望む必要がある。
日時	介護実習最終日もしくは介護実習最終日前に行う。実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
進行方法	実習生が司会進行を務める。
準備資料	資料の準備（事前に「最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ」を作成しておく。） 【内容】 (1) 介護実習目標 毎日の目標の中から主なものを2～3あげる。 (2) 目標を達成するために努力したこと 目標達成のために、介護実習で取り組んだ内容とそこから考えたことや学んだことを具体的に書く。 (3) 目標の達成状況 目標が達成できたかどうかとその理由を書く。 (4) 利用者の生活支援技術についてのまとめ 生活支援技術の実践から学んだことや介護実習で改めて気づいた留意点などを具体的に書く。 (5) 今後の課題や抱負 今後の学習や実習において、何について学んでいくか、どういうことに留意して学んでいくか具体的に書く。また、今回の介護実習での学びを、今後どのように生かしたいかを書く。

■ 介護過程検討会（3学年）

位置づけ	介護過程の一連の流れに沿って、利用者の状況や心身の状態を十分にふまえた情報収集とアセスメント、利用者に適した介護計画の立案と実施、適切な評価と計画の修正等が行われているか確認するためのものである。実習生は事前に記録用紙を整理し、課題を明らかにしておく必要がある。（中間と後半の2回実施する）
日時	実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
進行方法	実習生が司会進行を務める。
準備資料	資料の準備（事前に「介護過程記録用紙」に記入する。） 【内容（中間の検討会）】 (1) フェイスシートにおいて、これから情報収集が必要な内容を具体的に考察し、付箋紙等で記入する。 (2) アセスメントシートの内容について、検討が必要な部分を考察し、付箋紙等で記入しておく。 (3) 介護計画が利用者の願いや希望に添ったものとなっているか、また、実施可能かどうかを検討し、付箋紙等で記入する。 【内容（後半の検討会）】 (4) 介護計画の実施状況を詳しく記入する。 (5) 利用者の反応や変化などをふまえ、実践した支援の評価を記入する。 (6) 介護計画等の修正があれば、記入する。

■ 最終カンファレンス（介護実習反省会）（3学年）

位置づけ	介護実習の最終的なまとめとして、実習指導者や施設職員、担当教員が参加して指導・助言を行うものである。実習生は介護実習での学びをよく整理し、介護実習の成果と課題が発表できるよう準備してから望む必要がある。
日時	介護実習最終日もしくは、介護実習最終日前に行う。実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
進行方法	実習生が司会進行を務める。
準備資料	資料の準備（事前に「最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ」を作成しておく。） 【内容】 (1) 介護実習目標 毎日の目標の中から介護過程に関するものを2～3あげる。 (2) 目標を達成するために努力したこと 介護過程に関する目標達成のために、介護実習で取り組んだ内容とそこから考えたことや学んだことを具体的に書く。 (3) 目標の達成状況 介護過程を振り返り、目標が達成できたかどうかを具体的な理由をふまえて書く。 (6) 今後の課題や抱負 今後の学習や実習において、学びたいことを具体的に書く。また、今回の介護実習での学びを、今後どのように生かしたいかを書く。

Ⅲ 介護実習の事前学習

介護実習 A

Ⅰ 生活支援技術の手順と留意点

ボディメカニク	1 事前に介護者の立つ位置，物品の置き場所，ベッドの高さ等に配慮する。
ス	2 利用者にできるだけ近づく。
	3 対象を小さくまとめる。
	4 支持基底面積を広くとる。
	5 膝を曲げ重心を下げ，骨盤を安定させる。
	6 足先を動作の方向に向ける。
	7 大きな筋群を使う。
	8 水平に移動する。
	9 てこの原理を活用する。
ベッドメイキン	1 必要物品の確認をし，リネン類を使う順にそろえる。
グ	2 キャスターとストッパーを確認する。
	3 ベッドの高さを調整する。
	4 シーツを手早くきれいに広げる。
	5 三角コーナーを崩れないようにつくる。
	6 シーツのしわ，たるみをつくらない。
	7 ボディメカニクスを活用する。
シーツ交換	1 状況・目的を説明して，同意を得る。
	2 換気に配慮し，環境を整える。
	3 転落防止のため，サイドレールなどを使用し，安全に配慮する。
	4 汚れたシーツを小さくまとめ，包み込むようにし，ベッド上のゴミを取りのぞく。

	5	新しいシーツを中央を一致させて置き，残り半分は扇子たたみにし，汚れたシーツ下に入れ込む。
	6	ほこりやゴミが飛散しないように汚れたシーツを取り除き，しわ，たるみがないよう，新しいシーツに交換する。
	7	利用者の負担が少ないよう配慮し，安楽な体位をとってもらい，寝心地を確認する。
衣服着脱の介護	1	利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
(前開き衣服)	2	プライバシー保護のためにスクリーン等を使い，利用者に配慮する。
	3	体調や気候に配慮しながら，利用者の好みの衣服をえらんでもらう。
	4	上着を脱ぐときは，ボタンを外して，患側の肩部分を少し下げる。
	5	健側の袖を全部脱ぎ，最後に患側も脱いでもらう。
	6	着る前に，衣服の袖をたぐり寄せて，開口部を広くしておく。
	7	上着を着る時は，患側に袖を通して，肩から首まで着てもらう。
	8	健側の袖を通し，両肩を整えボタンを掛け，裾を整える。
	9	利用者に声かけを行いながら自立支援を促す。
	10	安全や着心地に配慮する。
衣服着脱の介護	1	利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
(かぶり衣服)	2	プライバシー保護のためにスクリーン等を使い，利用者に配慮する。
	3	体調や気候に配慮しながら，利用者の好みの衣服をえらんでもらう。
	4	上着の前身頃を胸まで，後ろ身頃をできるだけ肩の方まで引き上げる。

	5 上着を脱ぐ時は、健側の脇の下から手を入れて肘を抜くように健側を脱ぎ、次に頭部を抜いて患側の肩、腕の順で脱いでもらう。
	6 上着を着る時は、患側の衣服を袖口からたぐり寄せて持ち、頭を通し、健側の袖を通し、袖を整える。
	7 ズボンを脱ぐときは、健側の膝を立て腰を浮かせて健側、患側の順にズボンを脱いでもらう。
	8 ズボンを着るときは、患側の踵を保護しながら患側のズボンを通し引き上げ次に健側のズボンを通し引き上げる。
	9 利用者に声かけを行いながら自立支援を促し、安全や着心地に配慮して、脱いだり着たりする。
移乗・移動の	【上方移動】
介護 ①ベッド	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
上での移動	2 枕を外し、利用者の両手を腹部で組む。
	3 利用者の膝を立てる。
	4 頭に近い方の手を利用者の肩甲骨部に入れる。
	5 もう片方の手は、腰部または大腿部に入れる。
	6 声かけをしながら、利用者の足を床方向に踏ん張ってもらい、両方の腕で利用者をしっかり支えながら頭の方へ移動してもらう。
	7 介護者は、重心を利用者の足の方から頭の方へ移動させながら、自分の体重移動を行う。
	8 寝具等を利用者が気持ちのよいように整え直し、安楽と安全を確認する。
	9 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。

	【水平移動】
	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
	2 枕を手前に寄せ，利用者の両手を腹部で組む。
	3 利用者の膝を立てる。
	4 介護者の肘関節で利用者の首を支え，手のひらで肩甲骨を支える。
	5 介護者の反対の腕をベッドにつき，それを支柱にして利用者の上半身を持ち上げて手前に移動してもらう。
	6 介護者は利用者の頭に近いほうの手を利用者の腰の下に入れる。
	7 介護者の両膝をベッドサイドにつけ，腰を下に落とすようにし，利用者を手前に引きながら移動する。
	8 寝具等利用者が気持ちよいように整え直し，安全で安楽な体位か確認し，声掛けをする。
	9 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ②体位	2 利用者が寝返る側の反対側に回り，利用者をベッドの片側に寄せる。
変換（仰臥位か	3 利用者の頭部を支えながら，枕を寝返る側に寄せる。
ら側臥位）	4 横になったときに腕を敷き込まないよう，利用者の両手を胸部，または腹部の上に置く。
	5 膝を立てるか組んでもらう。
	6 肩と膝に手をあて，手前に回転してもらう。
	7 体調と利用者の安全を確認する。
	8 自立支援を考慮した声かけをする。
	9 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。

移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ②体位	2 利用者の両腕を組み，両膝を曲げて立ててもらう。
変換（仰臥位か	3 利用者の肩と膝を支え，利用者に横向きになってもらう。
ら側臥位）	4 片方の手を利用者の肩甲骨部に回し，もう一方の手で両膝を支える。
	5 先に利用者の足をベッドから下ろしてもらう。（一例）
	6 ベッドは利用者の両足の足底が床につく高さに調整する。
	7 利用者の手はベッドについて，安定した姿勢をとってもらう。
	8 体調と利用者の安全を確認する。
	9 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ③ベッド	2 車いすの安全点検をし，ベッドと車いすの角度が15～20度前後になるよう
から車いす	に置く。
	3 車いすのストッパーをかけ，フットサポートを上げる。
	4 利用者にベッドに浅く腰掛けてもらい，端座位になってもらう。利用者の足底
	が床に着いていることを確認する。
	5 利用者の麻痺側を保護しながら前傾姿勢を取ってもらい，膝折れ防止のため，
	介護者の膝で支えながら，健側の足を軸にして立ち上がってもらう。
	6 ゆっくりと方向転換してもらい，殿部を車いすの方に向けてもらう。
	介護者は利用者と一緒に腰を下ろし，車いすに深く座ってもらう。
	7 利用者の足をフットサポートに乗せてもらう。
	8 利用者の体調や気分を確認する。
	9 声かけをしながら自立支援を促す。
	10 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。

移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ④杖歩行	2 利用者に合った種類の杖を選ぶ。
	3 杖の長さが適当か確認する。杖の先端のゴムがすり減っていないか確認する。
	4 利用者の健側の手で杖を持ってもらう。
	5 利用者の麻痺側のやや斜め後ろに立つ。
	6 杖を一步前に出し，麻痺側の足を出し，次に健側の足を出すように声かけをする。
	7 階段の上りは，杖を先に出し，続いて健側の足を踏みだし，最後に麻痺側の足を引き上げてもらうよう声かけをする。介護者は麻痺側の一段後に立つ。
	8 階段の下りは，杖を先に下ろし，続いて麻痺側の足を下ろし，最後に健側の足を下ろしてもらうよう声かけをする。介護者は麻痺側の一段前に立つ。
	9 利用者の状態を観察しながら，安全にゆったりした雰囲気歩く。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ⑤車いす	2 利用者の好みや健康状態・天候等に配慮した靴や服装にする。
での移動	3 車いすの事前点検を行う。
	4 利用者の手足の位置を確認し，安全・安楽な体位で車いすに座っているか確認する。
	5 両手でハンドグリップを深くきちんと握り，前後左右に注意してゆっくり押す。
	6 段を上がる時は，車いすを前向きで段に近づけ，テッピングレバーを踏んでキャスターを上げ，段にのせ後輪を押し上げる
	7 段差を下りるときは，後ろ向きになり，後輪を降ろしキャスターを上げた状態で後ろに引いてゆっくりと下ろす。

	8 上り坂では、介護者の体を少し前傾にして一步一步確実に押し上げる。
	9 急な下り坂では、後ろ向きで、車いすを支えながら下りる。
	10 静止しているときは、両側のブレーキを掛ける。
	11 利用者に不安を与えない声かけをし、状態や安全を確認しながら行う。
食事の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
①食事の介助	2 手を洗い、身仕度を整えてもらう。必要に応じてエプロンやタオルを使用してもらう。
	3 介護者は利用者と同じ目線の姿勢を取る。
	4 食前に水やお茶を一口勧めて、口の中が湿って食べやすくなるようにする。
	5 利用者に献立を説明し、食欲がわくように声かけを行う。
	6 利用者の身体状況・摂食ペースに合わせて、一回の量を考え、飲み込みを確認し、誤嚥のないように介助する。
	7 利用者の好みを聞きながら、主食や副食が偏らないよう順序よく介助する。
	8 最後にお茶を飲み、口の中に残渣物がないか確認する。
	9 利用者に少しの間座位をとってもらい誤嚥防止をする。
入浴の介護	1 利用者の体調を確認し（排泄を済ませ）目的を説明して協力・同意を得る。
	2 環境や利用者に合った必要物品を整え、準備しておく。
	3 介護者が湯温を確認したあと、利用者にも確認してもらう。
	4 利用者の手足は体の中心部に向かって洗い、腕を支えるときは指先に力を込めないようにして掌全体持つようにする。
	5 浴槽に入る時は、手すり等で身体の向きを変え、健側の足を入れてもらい、患側は膝の後ろを手で支えて入浴してもらう。

	6 浴槽から出るときは、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、バスボードに腰をかけて、患側の足から出してもらう。
	7 全身状態の観察を行う。
	8 利用者へ声かけを行いながら、自立支援を促して入浴ができるよう介助する。
	9 入浴後は体調を確認し、保温に留意し、水分補給を行ってもらう。
排泄の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
①車いすから便座へ	2 車いすを便座の斜め前方に置く。
	3 車いすのストッパーをかけ、フットサポートを上げる。
	4 利用者に手すりを持ってもらい、利用者の腰を支えて立位をとってもらう。
	5 立位が安定していることを確認し、衣類を下げる。
	6 便座の位置を確認して、利用者に前傾姿勢をとってもらい、利用者の腰を支えながら、ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
	7 下着とズボン等を膝より下に下げてもらい、バスタオルなどを掛け、その場から離れる。
	8 排泄後はきれいに拭けたかを確認し、衣類を整えた後、利用者の手洗いをを行う。
	9 利用者のプライバシーを考慮しながら、声かけを行い、自立支援を促す。
	10 ボディメカニクスを応用した姿勢・動作で行う。
排泄の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
②おむつ交換	2 必要物品を確認し、カーテンやスクリーン等を使い利用者のプライバシーに配慮する。
	3 利用者のタオルケットを上半身に、バスタオルを陰部あたりに掛け、殿部に防水布を敷く。

2 レクリエーションの意義と留意点

【レクリエーションの意義】

レクリエーションを行うことで、生きていくためのエネルギーを回復して元気になり、家族や仲間、地域の人たちとの交流を楽しみ、夢中になれるさまざまな趣味や遊びを楽しみたいというニーズを充足させることができる。

介護実践は、利用者のQOLの向上を目指して行われるが、QOLとは人の生活の満足度を質的に捉えようとする考え方であり、生活にゆとりと楽しみをもたらすレクリエーション活動を充実させることはQOLの向上を目指す介護実践にとって非常に重要である。また、意欲の向上、高齢者同士や介護スタッフや実習生とのコミュニケーション向上など多くのメリットがある。

高齢者福祉施設において、レクリエーション活動は非常に重視されており、特にデイサービスセンターなどでは、レクリエーションがなければ活動が成り立たないといえる。

【レクリエーションの留意点】

介護の現場でのレクリエーションは、安全に配慮した上で適切に行うことが大切である。また、「参加を無理強いしない」ということも必要である。参加させるのではなく、参加したくなるレクリエーションを行うような工夫が必要である

レクリエーションでは、利用者一人一人が楽しみながら能力を発揮することが大切である。高齢や障害のために、何かを楽しむために支援を必要とする場合は、使用する道具の工夫、場所や環境の整備、楽しみ方の工夫、支援する人の対応など、さまざまな工夫が必要である。

介護が必要な高齢者の方々の心身の状態はさまざまなので、介護職員がきちんと判断をして、一人一人に合ったレクリエーションであるか検討する必要がある。難しすぎる活動はやる気が起きないが、簡単すぎる活動では、飽きて興味を失ってしまう。また高齢者によっては、子ども扱いの様に感じて、馬鹿にされていると思うこともある。自尊心を尊重することが大切である。

【介護実習におけるレクリエーション援助】

「介護実習」では、レクリエーションメニューの選択やその工夫など、高齢者の方々への敬意を払うことを忘れずに、職員や他の実習生と打ち合わせを行い、高齢者の方々が楽しんで参加できるような準備を行う必要がある。「介護実習」の開始前にレクリエーション材を用意しておき、開始後に対象となる利用者の状況を見て具体的な計画を立案するようにする。ゲームなどのルールやどのような形で参加してもらうかなどは個別の調整も必要になる。レクリエーションの参加者の状況を把握し、人数や時間、必要物品や説明内容など利用者の状況とレクリエーションの内容から適切に判断する。

集団援助の技術と個別援助の技術を活用し、参加者全体に対して説明や進行を行う役割と、一人一人の参加者をフォローする役割が必要になるので、実習指導者に確認し、事前に打ち合わせを行っておく。

そして、実施の内容やその結果、課題と改善点を記録用紙に書いておき、次の実施に生かすようにする。

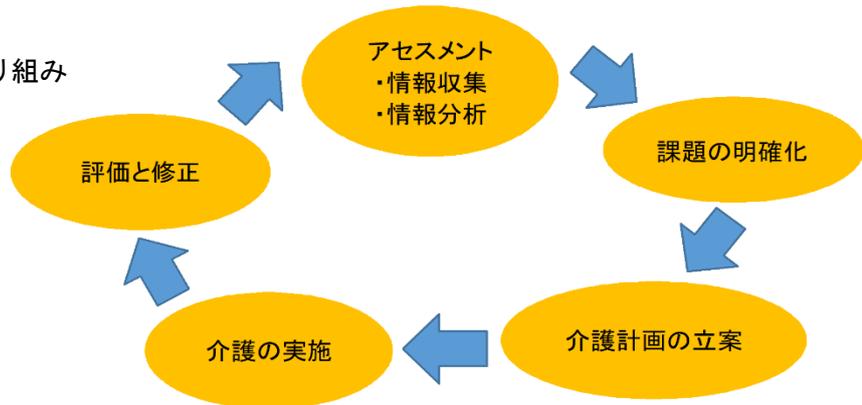
3 介護過程の展開

1 介護実習における介護過程

介護は生活を支える行為である。生活を営んでいる利用者を主体とし、その利用者の生活の質の維持・向上にどのように関わるのかを考える。利用者の求めていることや望んでいることに介護福祉士の専門的な視点を加味し、客観的で科学的な根拠（エビデンス）のもとに、考えを組み立てていくことが大切である。介護過程の記録用紙を活用してすすめていく。

介護過程の展開，すなわち，利用者の生活リズムや個性を理解した上で，個別ケアについて理解し，根拠（エビデンス）を持って利用者一人ひとりの主体性を尊重した介護計画を立案し，実施・展開することで，利用者主体の介護のあり方を学ぶとともに，介護実践能力を養うことができると考える。

2 介護過程の構成要素と取り組み



(1) アセスメント

アセスメントは情報収集・情報分析で成り立ち、「課題の明確化」につながるものである。事前評価とも言われ，利用者の心身の状態に応じた適切な介護計画を作成するために必要な情報を収集し，整理，分析，そして支援の方向性を判断することである。

情報収集は利用者の状況を把握するために行うものである。先入観や偏見を持たず，自分の目の前にある事実をありのままにみて見て，利用者の人生と生活の全体像（生活歴，入所までの経緯，家族構成と家族の状況，健康状態，身体の状態，1日の過ごし方，アクティビティ，利用者の思い，家族の意向，自立した日常生活の阻害要因）を正確に把握することが必要である。情報は，利用者本人から収集する，職員から収集する，家族から収集する，記録から収集するの4つの方法で収集する。情報収集した内容は，内容を吟味したうえで「介護過程記録 NO,1（フェイスシート）」にまとめる。日常生活動作や口腔や皮膚の状態，コミュニケーション能力，認知機能，対人関係については「介護過程記録 NO,2（アセスメントシート）」に整理してまとめる。このように ICF の構成要素に従って情報を取りまとめておくと，以降の情報の整理・分析や課題の明確化に移行しやすくなる。情報分析（情報の解釈・関連付け・統合化）にあたっては次の3つの視点で検討し，「介護過程記録 NO,2（アセスメントシート）」に記入する。3つの視点とは，①健康状態が悪化するような点はないか。（生命の安全），②日常生活の自立，継続できていない点はないか。（生活の安定），③その人らしく生活できていない点はないか。（人生の豊かさ）である。情報の解釈とは，3つの視点の中で，なぜそれができていないのかを考え，多くの情報の中からそれに関係する情報をまとめ，理解することである。

情報の関連づけ・統合化とは、関連性のある情報を統合し「今の状態がなぜ生じているのか」「こうすればもっとよくなるのではないか」「今の状態がこのまま続くとどうなるのか」という推測をしていくことで課題を明らかにしていく過程である。収集した情報が利用者の生活にどのような影響を与えているのかを推測し、「介護過程記録 NO,2(アセスメントシート)」の【情報の解釈・関連づけ・統合化】のところに、「●●のため○○が必要ではないか。」、「●●のため○○のリスクがあるのではないか。」、「●●のため○○につながる可能性があるのではないか。」などのように書く。

(2) 課題の明確化

課題とは利用者の望む生活を実現するために必要なことであり、収集した情報を解釈し、関係性を明らかにし、予後を予測することで明確になった内容について、状況の悪化を防ぎ、状況の維持・改善のために必要な支援の方向性を示すのもである。「介護過程記録 NO,2(アセスメントシート)」の【課題】のところに「●●のため○○が必要である。」、「●●のため○○のリスクを防ぐ必要がある。」、「●●のため○○を防ぐ必要がある。」などのように書く。課題を明らかにしていくと、その課題は複数挙がってくることもある。その際は、情報分析の3つの視点をもとに課題に優先順位をつける。このとき、利用者の立場に立って考え、利用者が幸せに生活するための課題かどうかを十分に検討する。

(3) 介護計画の立案

アセスメントで明確化した課題を達成するための設計書を「介護計画」という。利用者の望む生活を支えるために、利用者の自己決定を尊重しながら、家族や他の専門職との連携のもと、利用者1人ひとりに対する介護計画を作成する。「介護目標」とは、介護職の目標ではなく、利用者の達成する具体的なものである。利用者のADLとQOLの現状を把握し、自立や向上に向けて考える。介護は客観的で科学的なエビデンス（根拠）に基づいて展開されなければならない。介護計画について、「なぜ、このように考えたのか。」というエビデンス（根拠）をきちんと説明できるようにしておく。また、表面化している捉えやすい情報だけを分析して介護目標や介護計画を考えた場合、慎重に観察を重ねたり、関係が深まることで新たな気づきや発見によって方向性が変わることもある。

介護目標を設定し、具体的な援助の内容を検討して介護計画を立案し、「介護過程記録 NO,3」に記入する。一人の利用者に複数の介護職が関わることを想定して具体的に記述し、利用者本人・家族を中心に全員が共有することを念頭に作成する。留意点として、①いつ、どこで、誰が、何を、何のために、どのように行うのかを明確にする、②個別性を尊重し、時間や頻度など、利用者の状況に合わせて作成する、③目標と援助内容・方法の一貫性を確認する、④わかりやすい表現で記述する、⑤どうしたら意欲的に取り組み、楽しめるかを考え、楽しんで取り組めるような工夫をする、の5項目に気をつける。また、介護計画を立てるときは、利用者の反応のどんなところを観察するのか、例えば、表情の変化や他の利用者との関わりなど、具体的な観察内容と利用者がどうなることが目標達成なのいかという評価の基準を明確にして、付箋紙等に記載しておき、評価を書く時に活用する必要がある。介護目標は「介護過程記録 NO,3」の用紙に記入し、実施と評価につなげていく。同じ計画を継続して実施することもできる。計画を修正した場合は、評価の欄に理由を記入する。

(4) 介護の実施

介護計画にもとづいて介護（生活支援）を実施する。実施にあたっては、安全と安心、快適性、自立支援、尊厳の保持の視点により「心身の状態に応じた介護」を行う

ア 安全と安心、快適性の視点

事故防止と感染予防に留意する

介護技術の熟練に努める

利用者とのコミュニケーションを十分に図る

利用者の心理的な理解に努める

イ 自立支援の視点

利用者の健康状態の把握

利用者の現在の機能と能力の把握とその活用

利用者自身による選択

利用者の意欲の促進

ウ 尊厳の保持

介護内容の事前の説明と同意を行う

自己決定を促す

接遇（言葉遣い・態度）

つまり、介護計画が本当に利用者を尊重し、希望や意向に沿ったものであるか、押しつけになっていないかなど常に考慮する必要がある。そして、介護事故を起こさないようリスクマネジメントの意識を持って実施することが必要である。実施中は注意深く利用者の観察（体調、意欲、集中力、疲労、表情、しぐさ、発言など）を行い、その観察によって利用者の理解を深めることができる。実施中がアセスメントの機会になる。実施した内容は「介護過程記録 NO,3」に「記入するが、利用者の観察内容などをすべて書くことはできないので、毎日の記録用紙にも記入する。

(5) 評価・修正

介護の実施状況について、効果や目標の達成度、支援内容や方法、新たな課題などがないかどうか評価し、「介護過程記録 NO,3」の用紙に記入する。介護計画を立てるとき、利用者の反応の具体的な観察内容と利用者がどうなることが目標達成なのいかという評価の基準を考えておいたので、評価を記入するときは、そのことをきちんと記載するよう留意する。

必要に応じて介護計画の内容を見直し、修正を行う。計画を修正した場合は、評価の欄に理由を記入する。

介護過程の記録用紙の最後に、「介護過程の振り返り」を記入し、学校に提出する。自分の考察や感想を中心に記入し、「介護総合演習」でおこなうまとめや報告書の作成に活用する。

4 感染症について

1. 季節性インフルエンザ・新型インフルエンザ

概要	<p>インフルエンザウイルスにより引き起こされる急性ウイルス性疾患で、A型、B型、C型の3つがある。日本では11月下旬から12月上旬に発症し、翌年の3月頃まで罹患者が増加する。感染力が非常に強いのが特徴である。</p> <p>新型インフルエンザは季節性インフルエンザと違い、ほとんどの人が初めて直面するため有効な免疫を持っていないうえに、感染力は非常に強いため大流行を引き起こす。</p> <p>免疫力の低下している高齢者、乳幼児、基礎疾患がある人は慎重に対応する必要がある。</p> <p>飛沫感染によって感染し、潜伏期間は1～2日である。</p>
症状	季節性、新型ともに突然の発熱で、38℃以上の高熱が出る。発熱の他に悪寒、咽頭痛、筋肉痛、頭痛、咳、全身倦怠感などが現れる。
予防	インフルエンザワクチンの予防接種。 マスクの着用。うがい・手洗いの励行。 換気を行う。室温22℃湿度60%を保つ
対応	咳のある人は咳エチケットの対応が必要 高齢者は肺炎を併発し、急速に重症化するおそれがあるため観察を十分に行う

2 MRSA感染症

概要	多くの抗生物質に耐性を持つ多剤耐性黄色ブドウ球菌のことで、接触感染する。代表的な院内感染の原因である。MRSAは黄色ブドウ球菌と同じように鼻や咽頭の粘膜や皮膚に付着している。抵抗力が弱い人に対し攻撃するという特性を持つ。
症状	発熱、黄色膿性痰 抵抗力の弱い高齢者や慢性疾患の患者に対し攻撃し、肺炎、敗血症、腸炎などを引き起こす。
予防	手洗いや手指消毒の励行 清潔な環境の維持
対応	個室管理の必要はないが、基本的な感染予防を行い拡散防止に努める 衣服、リネン類は通常の洗濯で十分である 浴槽の洗浄も通常通りでよい 保健所に届ける

3 ノロウイルスによる感染性胃腸炎

概要	<p>11月～3月の、主に冬季に多発するが、年間を通じて患者はみられる。</p> <p>ほとんどが経口感染で、主に汚染された貝類（カキなどの二枚貝）を、生あるいは十分加熱しないで食べた場合に感染する。感染力は非常に高い。潜伏期間は12～48時間である。ノロウイルスは85℃以上1分間の加熱で感染性がなくなる。</p>
症状	嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱は軽度（37～38℃）である。
予防	<p>便を処理する場合は、使い捨て手袋を使用する。嘔吐物の処理の時は、手袋の他、予防衣やマスクも着用する。</p> <p>取り除いた後に残った便や嘔吐物にはペーパータオルをかぶせ、その上から50倍から100倍に薄めた市販の塩素系漂白剤を浸るように注ぎ、汚染場所を広げないようにペーパータオルでよく拭く。</p>
対応	<p>流行期には慎重に対応し、医療機関を受診する。</p> <p>保健所に届ける</p>

4 腸管出血性大腸菌感染症

概要	<p>出血を伴う腸炎を引き起こす大腸菌で、国内では井戸水、サラダ、生肉からの感染が報告されている。無症状の潜伏期間は2～9日と長い。</p> <p>大腸で増殖するときに、「ベロ毒性」を作り「溶血性尿毒症症候群（HUS）」を引き起こす可能性がある。</p> <p>感染力が非常に強く、食品にごく少量ついていても感染し、また入浴やタオルの共用、トイレの取っ手などに付着した菌などによって二次感染を起こすこともある。</p>
症状	<p>無症状な潜伏期を過ぎると、初期には下痢と腹痛が起きる。3日目ぐらいから激しい腹痛とともにベロ毒素によって大腸の粘膜が傷められ血便が出はじめる。重症化すると「溶血性尿毒症症候群（HUS）」へと進行する場合があります、腎臓障害や神経障害を引き起こす。</p>
予防	<p>少量の菌量で感染するため、二次感染予として、トイレの便座やドアノブのアルコール清拭、食品の洗浄や十分な加熱を行う。</p>
対応	<p>激しい腹痛を伴う水様便に注意し、医療機関を受診する。</p> <p>手洗いの徹底</p> <p>保健所に届ける</p>

5 B型・C型肝炎感染症

概要	<p>血液を介して感染するウイルス性肝炎である。</p> <p>肝炎や肝硬変といった肝臓の病気を引き起こす可能性が高くなり、肝臓がんの原因になることもある。</p>
症状	<p>無症状の場合が多く、症状が出る人は感染者の約 20～30%と言われる。</p> <p>倦怠感，食欲不振，吐き気，濃い色の尿が出る，黄疸など。</p>
予防	<p>ワクチンの接種。</p> <p>感染者の血液に触れる場合は手袋を着用する。</p> <p>インシュリン注射などをしている場合は，使用後の注射針を安全に処理する。</p>
対応	<p>針刺し事故などがあった場合は，流水による洗浄と消毒を行う</p> <p>早期に受診し，治療する</p>

6 疥癬

概要	<p>ダニの一種であるヒゼンダニが皮膚に寄生することで発症する皮膚病。通常の疥癬の他に重症化し集団感染を起こしやすいノルウェー疥癬もある。ノルウェー疥癬は約 1 ヶ月の潜伏期間後に発症する。接触感染が主であるが，衣類やリネン類からも間接的に感染する。</p>
症状	<p>掻痒感 夜間に特に激しいかゆみが生じる。</p> <p>赤い小丘疹（指間，腋下，下腹部，大腿内部に現れる）</p> <p>疥癬トンネル。</p>
予防	<p>衣類やリネン類は 50℃以上の熱水で洗う。</p> <p>布団の日光消毒や乾燥を行う。</p>
対応	<p>感染拡大防止のため個室対応となる。入室時は予防衣や使い捨て手袋などの着用が必要。</p> <p>トイレの便座はアルコール清拭 タオルなどの共用を避ける。</p> <p>皮膚の状態やかゆみの有無，無意識にかきむしっていないかなどの観察。</p>

7 新型コロナウイルス感染症

概要	<p>ウイルス性の風邪の一種。主な感染経路は飛沫感染と接触感染（感染者の飛散した唾液や痰などにより汚染された環境に触ることで感染）である。空気感染の可能性も指摘されている。</p> <p>潜伏期間は1～12.5日（多くは5～6日）とされており、その間に感染を広げる可能性もある。</p> <p>発症前後にウイルスの排出量が多くなる。</p>
症状	<p>発熱（37.5℃以上）、喉の痛み、咳、痰など。</p> <p>4日以上の経過後に高熱、胸部不快感、呼吸困難などが出現し、肺炎がおこることもある。重症化は高齢者や基礎疾患（心血管疾患、糖尿病、悪性腫瘍、慢性呼吸器疾患など）を有する方で多く見られる一方、小児や若年層のなかには、感染してもほとんど症状が現れない無症状病原体保有者が存在する。</p>
予防	<p>手洗いや手指消毒の徹底。 マスクの着用。</p> <p>環境の消毒。</p>
対応	<p>保健所に届ける。</p> <p>入院などによる隔離。</p>

5 介護実習に必要な漢字

1	朝の アイサツ をする	挨拶	51	オンネツ療法	温熱
2	利用者の話を聴きながら アイツチ を打った	相槌	52	寝ている姿勢を ガイ という	臥位
3	指の間に アカ が溜まる	垢	53	ガイショウ はけがのことである	外傷
4	手で アシクビ を押さえて痛そうにしていた	足首	54	カイセン では皮膚の発疹と痒みがある	疥癬
5	アシモト が濡れていないか確認した	足元	55	ガインウ は咳のことである	咳嗽
6	背中に アセ をかいている	汗	56	疾患から カイフク する	回復
7	アセル と余計に手が震えた	焦る	57	カクタン キュウイン	喀痰吸引
8	昔の アンビ を教えてもらう	遊び	58	感染症のため カクリ が必要である	隔離
9	アツイ 夏なので、温度調節が大切になる	暑い	59	寝ていることを ガショウ という	臥床
10	湯の温度が アツク ないか確認する	熱く	60	悩んで カットウ している	葛藤
11	アツイ 段ボールの紙を使っている	厚い	61	あまり動かないことを カドウ という	寡動
12	脊椎を アツク して骨折したらしい	圧迫	62	関節の カイドウ イキ	可動域
13	アマツタ 物品は片付ける	余	63	認知症の カノウセイ がある	可能性
14	周囲の アンゼン を確認して行う	安全	64	カミ を整える	髪
15	アンラク な体位にする	安楽	65	主食を カユ にしてもらう	粥
16	胃痛は イカイヨウ が原因らしい	胃潰瘍	66	皮膚の カユミ がある	痒み
17	レクリエーションに イカセル もの	活かせる	67	カレイ に伴って低下する	加齢
18	イキオイ をつけて起き上がった	勢い	68	皮膚の カンカク	感覚
19	長い年月を イキル	生きる	69	シーツ交換を行うときは カンキ をする	換気
20	筋力を イジ する必要がある	維持	70	住居の カンキョウ を整える	環境
21	インキ がはっきりしている	意識	71	カンケツセイ ハコウという症状がある	間欠性跛行
22	車いすに イジョウ する	移乗	72	カンジョウ シッキン	感情失禁
23	検査の結果は イジョウ がなかった	異常	73	利用者の言動に カンシン を持つ	関心
24	皮膚を イショク している	移植	74	カンセツ コウシュク	関節拘縮
25	土を口に入れるなどの イショク 行動が見られた	異食	75	ウイルスに カンセン した	感染
26	教えて イタダク	頂く	76	カンチョウ を行ってのもので排便があった	洗腸
27	イタミ の程度を観察する	痛み	77	心臓の カンドウ ミヤクの疾患	冠動脈
28	内容が イチチ している	一致	78	利用者の キオウ レキを調べる	既往歴
29	車いすで イドウ する	移動	79	午後は キカイ ヨクの見学をした	機械浴
30	イフク の着脱を行う	衣服	80	キカン シエン	気管支炎
31	生活行為に対する イヨク が低下している	意欲	81	歩行時は ギシ を装着する	義肢
32	利用者に イライ されたことを報告する	依頼	82	口腔ケアの時は ギシ を外して洗浄する	義歯
33	経管栄養のために イロウ を造っている	胃瘻	83	歩行時は ギソク をつけている	義足
34	イントウ 痛がある	咽頭	84	キンソ タイシャが下がってきているらしい	基礎代謝
35	インプ は特に清潔に保つ	陰部	85	どもることを キツオン という	吃音
36	インプ センジョウ	陰部洗浄	86	キトク 状態から回復した	危篤
37	ウデを伸ばす	腕	87	キホン 的な技術を身につける	基本
38	入浴するようウナガス	促す	88	記憶の最初の過程を キメイ という	記銘
39	ウレシイ	嬉しい	89	ギャク タイにつながることは禁止されている	虐待
40	体温計を エキカ に入れた	腋窩	90	喀痰を キュウイン する	吸引
41	足指が エシ している	壊死	91	キュウカク に異常がある	嗅覚
42	食物をのみこむことを エング という	嚥下	92	ギョウ ガイで寝る	仰臥位
43	背中が曲がることを エンバイ という	円背	93	キョウ シンジョウの発作が起こっている	狭心症
44	しゃっくりは オウカク マクの痙攣でおこる	横隔膜	94	利用者の キョウ ミがある話題を提供する	興味
45	オウト の症状があれば注意する	嘔吐	95	利用者の情報を キョウ ユウする	共有
46	オク ガイで体操をする	屋外	96	キョウ ツの清掃を行う	居室
47	注意を オコタル	怠る	97	キンイシユク セイ ンクサクコウカショウ	筋萎縮性側索硬化症
48	入浴を無理にすすめると オコル	怒る	98	キンコシュクはパーキンソン病の特徴的な症状である	筋固縮
49	シーツに オセン がある	汚染	99	肘関節が クッキョク している	屈曲
50	チャワン に軽く一杯	茶碗	100	クリカエシ	繰り返し

101	クルマイス	車椅子	151	コマクまでが外耳道である	鼓膜
102	ケイカンエイヨウ	経管栄養	152	コムギゴのアレルギがある	小麦粉
103	ケイゴを使う	敬語	153	利用者の間でコリツしているようだ	孤立
104	ケイコツの骨折	脛骨	154	コワイ夢を見る	怖い
105	ケイタイデンワ	携帯電話	155	安定したザイを保つ	座位
106	利用者の訴えをケイチョウした	傾聴	156	ザイタクサンソリョウホウを行っている	在宅酸素療法
107	ケイツイショウ	頸椎症	157	サイテキな環境	最適
108	ケイブを後屈させると誤嚥につながる	頸部	158	園芸のサギョウと一緒にを行う	作業
109	昨夜からゲケツが続いているため注意が必要である	下血	159	活動にサギョウリョウホウシが一緒に参加する	作業療法士
110	ケツアツの低下に気をつける	血圧	160	ベッドにサクをする	柵
111	けつえき	血液	161	欲しいものを指でサス	指す
112	肺にケッセンができています	血栓	162	ザンゾンキノウ	残存機能
113	腹痛とゲリの症状が見られる	下痢	163	シカクに障害がある	視覚
114	ゲンエン食を食べている	減塩	164	シキウ筋腫の手術	子宮
115	入浴介助をケンガクした	見学	165	利用者のシコウに配慮する	嗜好
116	ゲンカクの症状が見られる	幻覚	166	介護保険法がシコウされた	施行
117	脳のゲンゴ中枢	言語	167	シコウの過程を大切にす	思考
118	ケンコウコツ	肩甲骨	168	歯に付着しているシコウを落とす	歯垢
119	ゲンゴチョウカクシ	言語聴覚士	169	シジキテイメンセキ	支持基底面積
120	実際にはないものが見えることをゲンシという	幻視	170	虫歯になりやすいシツツだ	歯質
121	ケントウシキが障害されている	見当識	171	シシュウビョウ	歯周病
122	ケンリョウゴ	権利擁護	172	間脳にあるシショウカブ	視床下部
123	コウアツザイを服用している	降圧剤	173	唾液には口腔のジジョウサヨウがある	自浄作用
124	コウオンショウガイのため話せない	構音障害	174	ジジョグを使って食事を食べる	自助具
125	脱水症ではコウカツ感を訴える	口渇	175	ジシンのない介助は行わない	自信
126	コウカンシンケイ	交感神経	176	ジシンに備えて準備している	地震
127	コウキシンのある人だ	好奇心	177	安定したシセイを保つ	姿勢
128	食後にコウクウケアを行う	口腔	178	ジシンシを大切にす	自尊心
129	コウケツアツを予防するために塩分を控える	高血圧	179	シタ	舌
130	コウシケツショウ	高脂血症	180	シタイフジウのため生活が困難になった	肢体不自由
131	コウジノウキノウショウガイ	高次脳機能障害	181	入浴のためシタギ	下着
132	コウジュウジンタイコッカショウ	後縦靭帯骨化症	182	シチュウ	支柱
133	関節のコウシユクが見られる	拘縮	183	シツカンセツを伸ばしてもら	膝関節
134	コウジョウセンの疾患	甲状腺	184	夜間にシッキンが見られた	失禁
135	咽頭の奥はコウトウという	喉頭	185	シツゴのため会話や文字に表現できない	失語
136	コウトウブ	後頭部	186	シッコウでは運動機能に問題はない	失行
137	コウハンセイハツツショウガイ	広汎性発達障害	187	皮膚にシッシンが見られる	湿疹
138	コウフン	興奮	188	シッペイがある	疾病
139	坐薬はコウモンから挿入する	肛門	189	シボウカン	脂肪肝
140	コウレイカリツ	高齢化率	190	シヤの異常のため右半分が見えない	視野
141	ゴエンにより肺炎が起こる	誤嚥	191	ジャクネンセイニンチショウ	若年性認知症
142	コカンセツ	股関節	192	利用者のジュウシンに近づく	重心
143	コキウ	呼吸	193	ジュウニシチウに潰瘍がある	十二指腸
144	コッカクキン	骨格筋	194	認知症のシュウヘンショウジョウ	周辺症状
145	コツスイから血液を採取する	骨髄	195	シュヨウができています	腫瘍
146	しりもちをついてコッセツした	骨折	196	シュウでコミュニケーションを図る	手話
147	コツソウショウショウがあるので転倒に注意する	骨粗鬆症	197	ジュンカンキの疾患	循環器
148	コツバンが安定している	骨盤	198	レクリエーションのジュンビができています	準備
149	コツバンテイキン	骨盤底筋	199	ショウカのよい食品を選ぶ	消化
150	コベツに対応する	個別	200	ショウカキの疾患	消化器

201	ショウチョウで栄養を吸収する	小腸	251	ソウウツの症状が見られる	躁うつ
202	ジョウドウコウドウが見られる	常同行動	252	思い出すことをソウキするという	想起
203	ショウドクする必要がある	消毒	253	車でソウゲイする	送迎
204	ショウノウの腫瘍による歩行困難	小脳	254	部屋をソウジした	掃除
205	ジョウホウシュウシュウ	情報収集	255	自信をソウシツする	喪失
206	ジョウミャク	静脈	256	ソクガイ	側臥位
207	ジョウワンコツ	上腕骨	257	しっかりとソシヤクして食べる	咀嚼
208	咀嚼して口の中でショッカイをつくる	食塊	258	パジャマのソデ	袖
209	ショクジセイゲンが必要な状態	食事制限	259	私のソンケイする人です	尊敬
210	ジョクソウ予防のために体位変換を行う	褥瘡	260	ソンゲンの保持	尊敬
211	便秘の予防のためにショクモツセンイを摂取する	食物繊維	261	2時間毎にタイヘンカンを行う	体位変換
212	ショクヨクが低下している	食欲	262	利用者に個別にタイオウする	対応
213	脈が少ないことをジョミャクという	徐脈	263	朝のタイノウを行う	体操
214	ジリツシンケイ	自律神経	264	ダイタイコツ	大腿骨
215	ジンウジンエン	腎盂腎炎	265	ダイタイコツクイブコッセツ	大腿骨頭部骨折
216	ジンカクに影響を及ぼす	人格	266	利用者のタイチョウを確認する	体調
217	シンキンコウソク	心筋梗塞	267	ダイチョウにポリープができています	大腸
218	シンケイショウ	神経症	268	ダエキの分泌	唾液
219	ジンコウコウモン	人工肛門	269	ダッケンチャカンは寝衣交換の基本である	脱健着患
220	シンシツサイドウ	心室細動	270	入浴後はダッスイ症状に気をつける	脱水
221	シンセンとはふるえのことである	振戦	271	タンザイで食事を食べる	端座位
222	シンゾウ	心臓	272	タンジュウの分泌	胆汁
223	ジンゾウ	腎臓	273	タンスイカブツの多い食品	炭水化物
224	ジンタイが損傷した	靭帯	274	タンセキ	胆石
225	シンタイショウウガイシャテチョウ	身体障害者手帳	275	タンノウエン	胆嚢炎
226	シンチョウに対応する	慎重	276	チキホウカウツシエンセンター	地域包括支援センター
227	シンチンタイシャ	新陳代謝	277	チュウジエン	中耳炎
228	スイコウキノウショウウガイ	遂行機能障害	278	チュウスウシンケイ	中枢神経
229	心身のスイジャクを招く	衰弱	279	チョウカクに障害がある	聴覚
230	白内障はスイショウタイが白濁しておこる	水晶体	280	チョウジュを祝う	長寿
231	スイゾウ	脾臓	281	チョウヘイソク	腸閉塞
232	スイブンセッシュ	水分摂取	282	チョクチョウで検温する	直腸
233	スイミンショウウガイ	睡眠障害	283	ツウカクが鈍くなっている	痛覚
234	ズガイコツ	頭蓋骨	284	ツウフウの痛みがある	痛風
235	セイカツシュウカンビョウ	生活習慣病	285	ツエホコウの介助を行う	杖歩行
236	セイケツな衣類	清潔	286	ツミカサネが必要	積み重ね
237	セイシンショウウガイ	精神障害	287	ツメを切る	爪
238	セイタイに腫瘍ができています	声帯	288	食事が食べられないためテイケツトになった	低血糖
239	朝は鏡を見ながらセイハツを行う	整髪	289	テキセツに対応する	適切
240	セキズイの損傷	脊髄	290	便が出ないのでテキベンを行う	排便
241	セキチュウカンキョウサクショウ	脊柱管狭窄症	291	テダスケが必要な状態	手助け
242	ニトログリセリンはゼッカ錠	舌下	292	テンガン薬	点眼
243	セッシュクセイヒフエン	接触性皮炎	293	熱中症でテンテキをしてもらった	点滴
244	セナカに痛みがある	背中	294	移乗の介護ではテントウに注意する	転倒
245	ゼンケイシセイをとってもらおう	前傾姿勢	295	デンプをしっかりと支える	臀部
246	ゼンソクの発作	喘息	296	眼の虹彩によって囲まれた孔をドウコウという	瞳孔
247	腸のゼンゾウウンドウ	蠕動運動	297	トウゴウシツショウショウ	統合失調症
248	センバツの時は、湯の温度に注意する	洗髪	298	脈拍はトウコツ部で測定する	橈骨
249	ゼンリツセンが原因の失禁	前立腺	299	トウニョウビョウ	糖尿病
250	ゼンワン部に湿疹が見られる	前腕	300	ドウミャクコウカ	動脈硬化

301	最近は家族の面会がトギレている	途切れ
302	私のトクギはピアノを弾くことである	特技
303	1人でぶつぶつ言うドクワが見られる	独話
304	平衡感覚の異常は耳のナイジの障害で起こる	内耳
305	ナイゾウに疾患がある	内臓
306	環境にナレル	慣れる
307	ナンチョウ	難聴
308	ナンビョウに指定されている疾患だ	難病
309	ニチジョウセイカツドウサ	日常生活動作
310	通風ではニョウサン値が高くなる	尿酸
311	ニョウシッキンのために夜間はおむつを使用している	尿失禁
312	ニョウドウ	尿道
313	排尿できないことをニョウヘイという	尿閉
314	ニョウロに結石ができています	尿路
315	他人の顔がニシキできない。	認識
316	ニンチショウの症状が見られる	認知症
317	自分でネガエリができない	寝返り
318	ネッシュョウにならないよう湯の温度に注意する	熱傷
319	ネットウを入れるので気をつける	熱湯
320	ネンマクは傷つきやすい	粘膜
321	ノウケッカンセイニンチショウ	脳血管性認知症
322	ノウケクセン	脳血栓
323	ノウコウソク	脳梗塞
324	ノウセイマヒ	脳性麻痺
325	ノウソクセン	脳塞栓
326	真面目な態度で実習にノゾム	臨む
327	利用者の状態をハアクする	把握
328	ハイエンをおこしている	肺炎
329	ハイカイの症状が見られる	徘徊
330	ハイキシュのため呼吸が苦しい	肺気腫
331	ハイケツカク	肺結核
332	感染症によってハイケツショウが起こっている	敗血症
333	ハイセツの介助	排泄
334	朝食をハイゼンした	配膳
335	ハイホウの障害で呼吸ができない	肺胞
336	ハイヨウイシュク	廃用萎縮
337	ハイヨウショウコウグン	廃用症候群
338	身長をハカル	測る
339	靴下をハク	履く
340	ほうきでハク	掃く
341	ハクナイショウのため手術を受ける	白内障
342	ハコウとは正常な歩行ができない状態をいう	跛行
343	ハツネツのため入浴ができなかった	発熱
344	ハンザイで食事を食べていただく	半座位
345	ハンソククウカンムシ	半側空間無視
346	自分でハンダンできる	判断
347	ビクウから痰の吸引を行う	鼻腔
348	ヒザに痛みがある	膝
349	麻痺のある場合はヒザオレを防止する	膝折れ
350	ヒツダンでコミュニケーションをとる	筆談

351	ヒフソウヨウショウ	皮膚掻痒症
352	ヒマンを解消する必要がある	肥満
353	夜間にヒンニョウが見られる	頻尿
354	運動をしたのでヒンミヤクになった	頻脈
355	フカンジョウセツ	不感蒸泄
356	フクガイになっていただいた	腹臥位
357	フクシキコキュウ	腹式呼吸
358	フクツウを訴える	腹痛
359	フクヤクの管理を行う	服薬
360	足背にフシュが見られる	浮腫
361	フセイミヤク	不整脈
362	利用者のフタンにならないよう気をつける	負担
363	胃の入り口部分をフンモンという	噴門
364	ヘイコウキノウが低下している	平衡機能
365	ヘインクセイカンキョウガイ	閉塞性換気障害
366	ヘンケイセイシツ(ヒザ)カンセツショウ	変形性膝関節症
367	ポウコウエンのため頻尿である	膀胱炎
368	姿勢をホジする	保持
369	ホソウグを使って歩行練習を行う	補装具
370	ホチョウキを使うとよく聞こえる	補聴器
371	臀部にホッセキが見られた	発赤
372	マンセイキカンシエン	慢性気管支炎
373	マンセイヘインクセイハイシッカ	慢性閉塞性肺疾患
374	身体をミツチャクさせる	密着
375	ミヤクハクを測定する	脈拍
376	腰を落として利用者とメセンを合わせる	目線
377	栄養バランスを整えてメンエキ力を高める	免疫
378	あり得ないことを信じるのがモウソウだ	妄想
379	モウマクの障害で失明した	網膜
380	胃の出口部分をユウモンという	幽門
381	ヨウカイゴ状態である	要介護
382	感情がヨクアツされている	抑圧
383	興奮してランポウになることがある	乱暴
384	リガクリョウホウシ	理学療法士
385	リショウして食堂で食事をする	離床
386	リュウドウセイチノウが低下する	流動性知能
387	クッションを使ってリョウシイを保つ	良肢位
388	運動をしてヤセル	瘦せる
389	視覚障害のある人をユウドウして行く	誘導
390	インフルエンザのリカンリツが高い	罹患率
391	リョクナイショウのため視野が狭くなっている	緑内障
392	利用者の変化に対してリンキョウヘンに対応する	臨機応変
393	昔からレイギを重んじる方である	礼儀
394	医療職とのレンケイが必要	連携
395	ロウカの手すりを拭いた	廊下
396	ロッコツを骨折したらしい	肋骨
397	体温計をワキにはさむ	脇
398	利用者の興味のあるワダイ	話題

IV 介護実習中の留意点

I 実習生としての態度

1 学生として謙虚で礼節ある態度をとる。

- (1) 言葉づかいは正しく、自分から笑顔で挨拶を行う。
- (2) 実習の開始時には、自分から「本日の目標」と「介護実習計画」を実習指導者（担当の施設職員）に伝え、助言を仰ぐ。
- (3) 実習中は、実習指導者（担当の施設職員）と連絡を取り、積極的に指導を仰ぐ。その際、相手の都合を確認してから指導を受ける。
- (4) 休憩中であっても、床に座ったり騒ぐなど不謹慎な行動をしない。学生同士の私語は慎み、互いに姓を呼ぶ。
- (5) 施設は利用者の生活の場であることを認識し、慎重に行動する。
- (6) 利用者と話ときは敬語を使用する。また、同じ目の高さでゆっくりと、低めの声で話す。
- (7) 利用者に対しては公平に接する。どの利用者に対しても積極的に関わるよう心がける。
- (8) 利用者に依頼されたこと（買い物・外への散歩など）は自己判断せず、必ず指導者に相談し対応する。
- (9) 利用者の持ち物を勝手に動かさない。利用者に何かをあげたり、約束したりしない。利用者から何か（お金やお菓子等）をもらわない。断りにくい場合は、指導者に相談する。
- (10) 学生であっても、利用者や家族の方から見れば職員と同じように見られるので、行動に気をつける。
- (11) メモは利用者の前では書かないようにする。特別に必要な場合は、実習指導者（担当の施設職員）の了解を得る。
- (12) 私用の電話は慎む。（携帯電話は電源を切ってかばんに入れておく。施設の電源で充電しない）
- (13) 実習に関係ないもの（菓子類、ゲーム、マンガの本等）は持って行かない。
- (14) 利用者や家族、実習先の職員などに、自分や他の実習生の個人情報を教えない。
- (15) 施設内や利用者の写真撮影等は行わない。（実習時間以外でも同じ）
- (16) 更衣室や控え室であっても、大声で談笑したり、床に座るなどの振る舞いはしない。
- (17) 一日の実習の終わりには、実習指導者（担当の施設職員）に報告と挨拶を忘れない。

2 出席に関しては下記事項を厳守する。

- (1) 時間を厳守する。実習開始時刻の10分前までに更衣を済ませ、実習指導者（担当の施設職員）に挨拶をし、実習できる態勢が整っていること。
- (2) やむを得ない理由で欠席する場合は、実習開始時刻の10分前までに実習先及び学校（担当教員）の両方に連絡すること。
- (3) 遅刻は原則として認めないが、やむを得ない理由で、遅刻をする場合は、必ず教員に相談すること。
- (4) 毎日、所定の介護実習出席簿に自分の印鑑を押印する。
- (5) 実習途中で体調が悪くなった場合は、無理をせず、実習指導者（担当の施設職員）に申し出ること。

3 守秘義務を厳守する。

- (1) 実習中に得た利用者についての個人情報や施設内の情報等については、いかなる状況においても、学習の場以外で口外しない。また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス等の電子媒体で公開しない。
- (2) 電子メールや Line などで介護実習に関する内容をやりとりしない。

4 実習施設等の機能に支障をきたすことがないように慎重に行動する。

- (1) 実習時間外の実習施設への出入りは、教員をはじめ実習指導者の許可を得る。
- (2) 実習生は学ぶ立場であることを自覚し、実習指導者（担当の施設職員）の指示に従って行動する。自己判断や思いつきで行動しない。
- (3) 施設の物品を使用するときは、許可を得てから使用する。施設の設備・備品などを破損した場合は、すみやかに実習指導者（担当の施設職員）に報告し指示を受ける。物品を使用した後は必ず元の状態にし、所定の場所に戻す。
- (4) 常に自分の所在を明確にする。

5 実習終了にあたっては下記事項を厳守する。

- (1) 実習指導者（担当の施設職員）にお礼を述べ、挨拶する。
- (2) 利用者への挨拶は実習指導者（担当の施設職員）の指示に従う。
- (3) 実習中借用した部屋・物品はきれいに清掃し元の位置に戻す。
- (4) 最終日の記録や提出が遅れている記録等があれば、忘れず提出する。
- (5) 実習終了後は、利用者との個人的な関係は差し控える。

2 実習施設への交通

- (1) できるだけ公共交通機関を利用する。
- (2) 実習施設への往復は、事故のないよう注意する。

3 服装・身だしなみ

- (1) 実習の行き帰りは正しく制服を着用し、実習の服装は指定された実習服とシューズとする。
- (2) 頭髪は清潔感があること。髪染め及びパーマは禁止する。前髪は眉にかからないようにする。後ろ髪は実習服につかないようにアップスタイルにする。（アップスタイルにならない場合は結ぶ。）ゴムやピンは黒色とし、目立たないよう気をつける。リボン、カラーゴム、派手な髪どめは使用しない。
- (3) 常に清潔な実習服を着用する。
- (4) 化粧はしない。アクセサリーはつけない。爪は短く切り、マニキュア等はしない。
- (5) 靴下は白で、ルーズソックス及びくるぶしまでのものは使用しない。
- (6) ハンカチ、ちり紙をポケットに入れて持参する。

4 健康管理

- (1) 規則正しい生活をし、睡眠をいつもより十分にとり、朝食を食べる。
- (2) 発熱・咳・下痢・嘔吐などの症状がある場合は速やかに学校に報告し、医療機関を受診する。
また、その結果を直ちに教員に報告する。
- (3) 実習期間中は特に感染予防を心がける。
 - ① 実習開始2週間前から実習最終日まで、健康チェックシートに記入する。
 - ② 実習期間中は、日常生活において感染症に罹患しないよう十分に気をつける。
 - ③ 実習中・実習前後のていねいな手洗いとうがいを励行する。

【手洗い】

- ・援助の前後は（流水と石けんまたは速乾性手指消毒剤による）手指衛生を行う。
 - ・感染源となりうるもの（血液・体液・分泌物・排せつ物、傷のある皮膚・粘膜等）に触れたときは、速やかに石けんと流水による手洗いをを行い、速乾性手指消毒剤による消毒を行う。
 - ・実習の前後は必ず流水と石けんで手洗いをを行う。（自分のタオルで拭く）
- ④ 実習中はマスクを携帯し、実習服やシューズの清潔に気をつける。
 - ⑤ 感染予防のため、職員の指示にしたがい防護具を使用する。
 - ・感染源となりうるものに触れるときは、手袋を着用する。
 - ・必要に応じて、マスクを着用する。

5 事故等の対応

1 事故防止対策

- (1) 介護実習では、知識不足、手順の間違いや確認不十分、または偶発的な事象などによって対象者に多大な傷害や損傷を与えてしまう可能性がある。実習生は、利用者にそのような害を与えることのないよう、十分に注意して実習を行う。
- (2) 利用者に十分な配慮ができるよう、体調を整え実習に臨む。
- (3) 介助を行う場合、安全性の確保を最優先とし、事前に教員や実習指導者（担当の施設職員）の助言・指導を受け、実践可能なレベルまで技術を修得してから臨む。
- (4) 安全に援助が行えるように、利用者の状況や環境に留意する。
- (5) 利用者について不安や疑問をもった場合やわからない場合は、教員や指導者に速やかに相談し、助言を得る。
- (6) 思いこみによる間違いを防ぐために、声に出して実習指導者（担当の施設職員）の確認を得る。

2 事故等の対応

- (1) 利用者を不慮の事故に遭わせた時は、直ちに実習指導者（担当の施設職員）に報告し、指示を受ける。また、できるだけ速やかに学校に報告する。
- (2) 施設の設備や物品、利用者の私物の破損時は、実習指導者（担当の施設職員）に報告し、指示を受ける。また、できるだけ速やかに学校に報告する。

6 実習の欠席や警報発令時の対応

- (1) 実習を欠席する場合は、学校に連絡をした後、実習先に連絡をする。
- (2) 通学途中、事故等に遭った場合は、直ちに学校に連絡する。
- (3) 交通機関の運行停止などにより実習に行くのが困難な場合は、必ず学校と実習先に連絡をすること。
- (4) 警報発令時の実習の取り扱い

【実習開始前】

午前7時

有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

実習施設のある地域のいずれかに大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

家庭学習

8:30までに学校（産振棟）に登校する

午前10時

引き続き、有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

有田中央高等学校のある有田川町の大雨警報、暴風警報または特別警報が解除された

家庭学習

12:00までに学校（産振棟）に登校する

【実習中】

実習開始後に、有田川町もしくは実習施設のある地域に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令された場合は、教員から指示があるまで実習を継続する。

V 介護実習記録

I 目的と意義

1 体験や思考を整理し、表現力や思考力を向上させる

介護実習を振り返り、学んだことや疑問に思ったことなどを文章に表現することで、考えが整理でき、介護実習で体験したことを自分の学習として意味づけることができる。利用者との関わりでは時間的余裕のない中での判断になることも多く、後で振り返ることで多面的に考察できる。利用者の反応をどう受け止めてどのように考えたのか、何を学ぶことができたのかを整理することで、表現力や思考力を向上することができる。

2 学習(実践したこと)の記録及び評価資料となる

実習内容や生活支援の実際、利用者の状況、アクティビティなどを記録することによって価値のある学習の資料となる。また、実習内容が明確になり評価や指導に役立てることができる。そのためにも、その場にはいない者が読んでもわかるように記述することが大切である。

3 コミュニケーションの手段となる

記録は実習指導者や教員とのコミュニケーションの手段の1つである。記録によって実習内容や成果、課題が実習指導者や教員に伝わり、適切な助言や指導を受けることができる。

2 心得

1 意識的な行動と観察を心がける

その日の実習目標を意識して行動し、何に対しても意識を持って観察することが大切である。

2 メモをとる

メモ帳を常に携帯し、観察したことや指導を受けた内容を書いておく。(実習に差し障りがないか判断して書くこと。)

3 すべてを書くのではなく、ポイントを絞ってまとめるようにする。

メモ帳に内容を書き出し、記録用紙に記入する内容を検討してから書く。

3 書き方と取り扱い

1 介護実習記録の作成について

- (1) 黒のボールペンで書く。(消せるボールペンは使用しない) 誤字などの訂正をするときは二重線を引いて訂正する。二重線が多くなった場合は書き直しをする。
- (2) 実習施設で使用している記録用紙等を複写(コピー)や写真撮影をしない。
- (3) 介護実習記録類の複写(コピー)や写真撮影をしない。
- (4) 実習記録は実習施設内において自筆で作成する(自宅には持って帰らない)。
- (5) 介護実習記録のすべての用紙に日付、実習施設名、氏名等を丁寧に書く。
- (6) 介護実習記録が破れたりしわがよったりしないよう丁寧に扱い、破れた場合には修理をするか書き直すようにする。
- (7) 誰が読んでもわかる内容であるか留意し、読みやすいようていねいな字で書く。

- (8) 誤字・脱字のないよう、専門用語などわからない用語や漢字は辞書等で調べて正しく記載する。携帯電話やスマートホンなどでの検索は禁止する。

2 介護実習記録の書き方の留意事項について

- (1) 始めと改行したときは、文頭を1文字あける。
- (2) 文字は楷書で常体文（・・・である。・・・だった。）で書く。
- (3) 敬語は使わない。「～させていただいた。」ではなく、「～した。」と書く。
- (4) 不適切な表現に注意する。
 - ・「脱がせる」「座らせる」「食べさせる」などの表現をしない。
 - ・「やっぱり」、「すごく」、「すごい」、「ほんまに」、「めっちゃ」、「どんどん」などの語句を使わない。
 - ・「・・・してあげる。」「・・・さしてもらおう。」「・・・やらしてもらおう。」「・・・しかいい。」「・・・したりした。」「・・・しとく。」「立てれる。」「・・・に生かされた。」「・・・しぬくい。」などの表現は不適切である。
 - ・→（矢印），？（クエスチョンマーク），！（エクスクラメーションマーク）などの記号は使わない。
- (5) 「実際にあったこと・事実」と「誰かがそう捉えていること」や「自分の考えや感想」はきちんと区別する。
- (6) できるだけ具体的に書く。「できるところをしてもらった。」、「プライバシーに配慮した。」、「コミュニケーションが取りづらかった。」、「楽しそうにしていた。」、「落ち着きがなかった。」などの表現は使わず、どのような様子か詳しく具体的に書く。
- (7) 記録用紙、メモ類、カンファレンスの資料等に個人を特定する情報（氏名等）を記載しない。
- (8) 不必要な情報・不確実な情報は記述しない。
- (9) 数値で表せるものについては、数値化して記載する。（水分量、姿勢保持の角度、排尿・排便回数、身長・体重など）
- (10) 実習記録では「根拠」が大切である。それはどうしてか、なぜそう思うのか、その理由は何か、などを考えて書くようにする。

3 介護実習記録の提出・返却について

- (1) 記録類の提出は他者に依頼しないで、実習指導者（担当の職員）に直接手渡すようにする。
- (2) 記録の返却については、直接受け取る。
- (3) 介護実習記録の実習指導者（担当の施設職員）のコメントを参考に介護実習を進める。翌日から実習目標や計画に生かす。

4 介護実習記録の保管・管理について

- (1) 氏名を記入するなど、自分の記録物であることを明らかにしておく。
- (2) 記録類は必ず専用ファイルにとじ、第三者の目に触れないようにする。
- (3) 記録類が入ったカバン等の置き忘れ、紛失や盗難に注意する。
- (4) 不要になった記録やメモ類はシュレッダーにかけるなど細かく切り刻んで廃棄する。

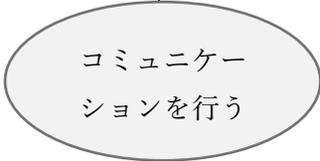
5 介護実習記録の紛失時の対応

記録類の紛失時は、直ちに教員に報告し指示を受ける。

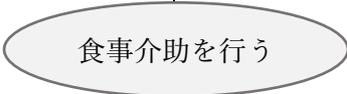
4 介護実習目標の立て方

介護実習目標には、何のために（目的）行うのか、また、どのように（方法）行うのかが含まれているように書くことが望ましい。書き方をまとめておく。

1 コミュニケーションの目標

目的	方法
	

2 食事介助の目標

目的	方法
	

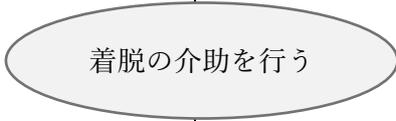
3 排泄介助の目標

目的	方法
<p>排泄介助を行う トイレ誘導を行う おむつ交換を行う</p>	

4 入浴介助の目標

目的	方法
<p>入浴介助を行う</p>	

5 着脱介助の留意点

目的	方法
	

VI 介護実習壮行会

介護実習壮行会には、介護実習と同じような緊張感をもって臨まなければならない。壮行会では、2学年・3学年の全員が「介護実習」に向けての決意表明として、実習の目標やどのようにして目標を達成するかなどを発表する。「介護実習」では慣れない環境の中で、施設の職員や利用者と関わりながら、日頃とは異なる学び方が求められる。何のために実習に行くのかを考えて、目標を持って臨む必要がある。その心構えを作るために介護実習壮行会への取り組みは重要である。

介護実習で特に取り組みたいことを目標に挙げ、その理由とどのように取り組んでいくかを整理し頭に入れておく。発表では、声の大きさや話すスピード、また発表時の態度などを事前に確認したうえで、参加者にわかりやすく伝えるように努める必要がある。壮行会では、顔を上げて、前にいる先生方に向けて発表する。発表後は、校長先生や担任の先生などから激励の言葉を聞く機会となる。他の生徒の発表や先生方の話を聴くときは、傾聴の態度で聴き、メモを取っておき、壮行会終了後に、壮行会での他の参加者の発言内容と自分が考えたことや感じたことを記録用紙にまとめる。そして、壮行会で学んだことを、介護実習の取組に生かすよう努める。

Ⅶ 介護実習の自己評価

介護実習 A

1 認知症対応型老人共同生活援助事業所

介護実習 I 自己評価		有田中央高等学校 2 学年 氏名： _____	
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
実習施設名	_____		
実習目標	具体的な取り組み・成果等	自己評価	
認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解を深める。			
利用者の生活や生活課題を理解する。			
利用者と適切にコミュニケーションを図る。			
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をつまえた生活支援技術を実践する。			
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを理解する。			
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。			
記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。			

評価点[4:よくできた 3:おおむねよくできた 2:あまりできなかった 1:できなかった]

2 通所介護事業所

介護実習 I 自己評価			有田中央高等学校 2 学年 氏名 : _____
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
実習施設名			
実習目標	具体的な取り組み・成果等	自己評価	
通所介護に対する理解を深める。			
利用者と適切にコミュニケーションを図る			
集団援助と個別援助のあり方を理解する			
安全と安楽に留意し、個性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を実践する。			
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを学ぶ。			
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。			
記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。			

評価点[4:よくできた 3:おおむねよくできた 2:あまりできなかった 1:できなかった]

3 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（2学年）

介護実習 I 自己評価

有田中央高等学校 2 学年 氏名： _____

実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
実習施設名		
実習目標	具体的な取り組み・成果等	自己評価
介護老人福祉施設もしくは 介護老人保健施設に対する 理解を深める		
利用者の生活や生活課題 を理解する。		
利用者と適切にコミュニケー ションを図る。		
安全・安楽に留意し、個別 性の尊重や自立支援の観 点をふまえた生活支援技 術を実践する。		
介護職員の役割や多職種と の連携、地域とのつながりに ついて理解する。		
介護福祉士としての基本的 な態度を身につける。		
記録の目的や意義につい て理解し、適切に記述す る。		

評価点[4:よくできた 3:おおむねよくできた 2:あまりできなかった 1:できなかった]

4 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（3学年）

介護実習Ⅱ自己評価		有田中央高等学校3学年 氏名：_____	
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
実習施設名			
実習目標	具体的な取り組み・成果等	自己評価	
傾聴・受容・共感の技法を用いて、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを図る。			
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援を実践する。			
一人の利用者についてICFの視点で全体像をとらえ、アセスメントを行う。			
個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案する。			
介護計画に基づき、適切に生活支援の実践、評価および修正を行う。			
多職種との協働を図る。			
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。			
記録の目的や意義について理解し、適切に記述する。			

評価点[4:よくできた 3:おおむねよくできた 2:あまりできなかった 1:できなかった]

Ⅷ 介護実習の事後学習

Ⅰ お礼状の作成

1 介護実習のお礼状に書く内容

介護実習のお礼状は形式に従って書くようにする。

- (1) 頭語と結語を使う
- (2) 挨拶
- (3) 名乗り
- (4) お礼
- (5) 具体的なエピソード
- (6) 改めてのお礼
- (7) 最後の挨拶
- (8) 日付と名前

2 介護実習のお礼状の書き方

(1) 頭語と結語を使う

手紙のマナーである「頭語・結語」として、介護実習のお礼状には「拝啓・敬具」の組み合わせを使うとよい。「前略・草々」はお礼状には使わない。

(2) 挨拶

まず季節の挨拶からはじめ、その次に「時下（貴施設におかれましては）ますますご清栄のこととお喜び申し上げます」などの挨拶を入れる。この部分は手紙の挨拶文として、ある程度定型化されている。「時下（貴施設におかれましては）ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます」、「時下（貴施設におかれましては）ますますご隆盛のことと存じます」、「時下（貴施設におかれましては）ますますご清祥のこととお慶び申し上げます」などを使うとよい。

(3) 名乗り

「私は〇月〇日から〇月〇日まで介護実習に行かせていただきました、有田中央高等学校二（三）年の〇〇××（フルネーム）と申します」など、相手にこちらが誰であるかを伝える。介護実習を終えてすぐに届けたお礼状であっても、書くようにする。

(4) お礼

ここからお礼状の本文となり、「この度は●日間に渡り大変貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました」、「この度は、職員の皆様や利用者の方々に大変お世話になり、本当にありがとうございました。」などの文章から始める。続けて「介護技術の留意点などたくさんのお話を教えていただき、私にとってかけがえのない大変有意義な日々となりました。」、「学校では知ることができなかった〇〇について学ぶことができ、とても充実した●日間でした。」、「介護実習ではこれまで学んだ知識を実践の場でより深めることができました。」、「介護の現場を初めて体験する私にとりまして、今回の介護実習はすべてが印象的でした。」など、どんなことに感謝をしているのか、自分にとってどんなものだったのかということを書く。

(5) 具体的なエピソード

お礼状では具体的なエピソードを入れることが大切である。ただ「ありがとうございました」を繰り返すのではなく、特に印象に残っている教えや出来事を添える。

「貴施設で過ごした〇日間は毎日が勉強でしたが、特に印象に残っているのは〇日目の〇〇です。〇〇を教えていただいたことで、〇〇が必要であると気付くことができました。」、「〇〇を経験させていただき、学校で習得した基礎の生活支援技術を利用者様一人一人に合った介助を行うために応用することの難しさを改めて知り、今後の自分自身の介護技術を向上のためのヒントを得ることができました」、「介護実習を終えて、自分に欠けている〇〇についてさらに勉強を深めたいと思いました」など経験した出来事を具体的に書く。

(6) 改めてのお礼

エピソードが書き終わったら改めてお礼を伝える。「まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました」「皆様から教えていただいた思いやりや心遣いを自分のものにできるよう、これからも介護福祉士になるための勉強に真剣に取り組んでまいりたいと思います。」「また、ご担当くださった〇〇さんのお仕事をそばで拝見し、私もいつか〇〇さんのようにさまざまなお仕事をこなせる社会人になりたい、と志を強くいたしました」「まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました」「略儀ではありますが、文中より御礼申し上げます」など、一区切りつくようなお礼文を添える。

(7) 最後の挨拶

本文の締めには「末筆ながら施設長はじめ皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。」「末筆ながら、貴施設の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。」などの一文を入れます。この部分は冒頭の挨拶と同じで、定型化されている文言でよい。

(8) 日付と名前

締め文の後には手紙を書いた日付と名前を書く。日付は和暦、名前は大学名から続けて書くようにする。日付は上から2文字分空けて書き、学校名・名前は便箋の一番下（横書きの場合は左端）に寄せて書く。

(9) 宛先の施設名と担当者名

最後に宛先となる施設名と施設長名を書く。相手の施設名と施設長名は、便箋の一番上（横書きならもっとも左）から書き始める。略すことなく、正式名称で書く。

2学年お礼状(例)

拝啓 秋晴の候

□時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

□私は●月●日から■月■日まで介護実習に行かせていただきました有田中央高等学校二年生の●●●●と申します。

□この度は、八日間にわたり介護実習をさせて頂き、誠にありがとうございました。

□介護の現場を初めて体験する私にとりまして、今回の介護実習はすべてが印象的でした。学校では知ることができなかったことや理解できなかったことをたくさん学ぶことができました。

□特に、指導者の方から利用者の状況をよく見るようご指導いただき、実践を重ねる中で観察の大切さに気づくことができました。

□職員の皆様が毎日丁寧に指導くださり、本当にありがとうございました。

□皆様から教えていただいた思いやりや気配りを自分のものにできるよう、これからも介護福祉士になるための勉強に真剣に取り組んでまいりたいと思います。

敬具

□□令和二年九月二十五日

和歌山県立有田中央高等学校 2年 ●●●●

介護老人福祉施設□□□

施設長 ○○○○様

3学年お礼状(例)

拝啓 仲秋の頃、貴施設におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

□私は●月●日から■月■日まで介護実習に行かせていただきました有田中央高等学校三年生の●●●●と申します。

□この度は二十八日間にわたる介護実習をさせて頂き、誠にありがとうございました。

□介護実習ではこれまで学んだ知識を実践の場でより深めることができました。職員の皆様や利用者の方々には大変お世話になりました。

□介護過程の展開を通して、改めて個別的な支援の意味を学ぶことができました。また、ご担当頂いた○○さんのお仕事をそばで拝見し、私も○○さんのように細やかな気配ができる介護職員になりたい、と志を強くいたしました。

□まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました。

□末筆ながら、貴施設の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和二年十月一日

和歌山県立有田中央高等学校 三年 ●●●●

介護老人福祉施設□□□

施設長 ○○○○様

2 介護実習 I のまとめと報告書作成

1 介護実習の記録用紙の提出

【提出する記録用紙】

- (1) 介護実習オリエンテーション記録（3施設）
- (2) レクリエーション実施計画書（3施設）
- (3) 中間カンファレンスのまとめ（3施設）
- (4) 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ（3施設）
- (5) 介護実習項目チェックリスト（3施設）
- (6) 介護実習記録（毎日の記録）

2 実習のまとめの作成

介護実習での学びを整理して考察を深めるために、介護実習の記録を振り返り、まとめを作成する。「介護実習 I のまとめ」の用紙に、実習施設ごとに振り返り、実習施設・事業所や利用者の状況について学んだことや、生活支援のあり方や生活支援の工夫について指導を受けたり考察した内容をまとめる。

(1) 介護職員や他職種の業務と多職種協働

介護実習を通じて知った介護職員の業務や多職種の業務をまとめる。また、多職種協働について介護実習を通して聞いたり経験した内容を書く。また、そのことについて自分がどう感じたか、考えたかについても書く。

(2) 施設の特徴的な取り組みや地域と連携した取り組み

日常生活支援の中にレクリエーション的な要素を取り入れていたり、レクリエーション活動などに取り組んでいる事例や施設の行事やイベントなど、その施設の特徴的な取り組みを書く。また、地域と連携した取り組みや地域との交流について聞いたり経験した内容を書く。そのことについて自分がどう感じたか、考えたかについても書く。

(3) 利用者の生活の理解

利用者の日課や週の予定などを書く。また、利用者全体について、食事、入浴、排せつ、移動、更衣、リハビリテーション、レクリエーション、環境整備などの日常生活の状況をまとめる。

(4) コミュニケーションと生活支援技術

利用者の状況とどのようなことに留意しながらコミュニケーションを図ったか、また、そのことで考えたことや感じたことを書く。

実践した生活支援技術の中で、特に深く学ぶことができた支援内容について、指導を受けた内容や留意して取り組んだこと、また、自分の考察や感想を書く。

(5) 考察を深めたいテーマとその理由

介護実習で経験した生活支援技術の中で、さらにテキストで調べたり考察を深めたりして、報告書にまとめる内容を選び、その理由を書く。

3 実習報告書の作成

実習報告書では、タイトルを決め、これまでに学習した専門的な知識や技術を確認し、十分ではなかった知識を充足していくプロセスを経て、自分の経験ふまえ自分の言葉でまとめる。

(1) タイトル

具体性のあるタイトルを考えるようにする。簡潔な表現で、ポイントとなるキーワードを含んでいるタイトルがよい。漠然として内容がイメージできないタイトル、例えば「Aさんの介護について」や「認知症のある高齢者とのコミュニケーションについて」などは適切ではない。具体例としては、「麻痺があるために食べこぼしがある利用者Bの安全で安楽な食事介助について」、「両下肢麻痺のある利用者Cの安楽な体位の工夫について」などが挙げられる。

(2) タイトルの設定期理由

介護実習のどのような経験からこのテーマを選んだのか、問題意識や関心など理由を加えて説明する。「指導を受けて〇〇の大切さが分かった。」、「利用者との関わりで●●について学ぶことができた。」

(3) 利用者の状況

タイトルに関連した利用者の身体的・精神的・社会的な状況をまとめる。

(4) 介護実習先での生活支援技術について

実習指導者の指導を受けながら自分が実践した生活支援技術やその結果、またその経験を通して考えたことや感じたこと、学んだことを説明する。

(5) 生活支援技術について調べたこととまとめ

介護の現場で学んだことの根拠をあきらかにするため、教科書や参考資料を使って確認し、その内容をまとめる。また、調べたことで自分が考えたことや学んだことを書く。

(6) 考察と今後の学習に生かしたいこと

今回の報告書の作成を通して考察したこと、さらに学んでいきたい内容および今後の課題等を書く。

(7) 引用文献・参考文献(介護実習Ⅱも共通)

単行本の場合 著者名(出版年)・『書名』・出版社名

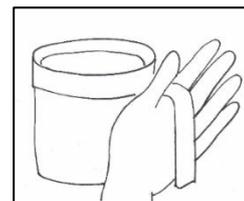
雑誌の場合 著者名(出版年)・「表題」『雑誌名』・出版社名

* 報告書の表記方法について(介護実習Ⅱも共通)

○表記方法を統一する

- (1) 文章は「常体」つまり「である・だ」などで終わる。
- (2) 数字は算用数字とし、1階、2名のように記載する。
- (3) 西暦と(和暦)の併用表記を原則とする。1958(昭和33)年のように記載する。
- (4) 特定できる情報は、A施設、B町、利用者C、職員D、理学療法士Eというようにアルファベットを使って匿名にする。
- (5) 発現した内容は「 」書きにする。
- (6) 図や表を使うときは、タイトルと通し番号をつける。
- (7) 接続詞は、基本的に「ひらがな」を用いる。

(例)図1 利用者Aの自助具



○わかりやすい表現

- (1) 長すぎる文章にならないよう注意する。
- (2) 主語・述語に矛盾がないように書く。
- (3) 1つの文章には、主語と述語はひとつずつにする。
- (4) 事実（客観的な内容）と、自分の考えや感想（主観的な内容）は区別する。

4 実習報告会の開催（介護実習Ⅱも共通）

実習報告会は体験を発表することで学びを共有し、改めて自分の学びを振り返るとともに、新たな課題に向け学びを整理する場でもある。発表者は、報告書を基に発表内容を考え、発表内容について参加者の理解が得られるように、十分に準備と工夫を重ねる。報告書を読むことが発表ではないので、発表に当たっては、発表原稿を聞き取りやすいように話し言葉で書き、模造紙やプレゼンテーションソフトなどを準備し、参加者によく伝わるような工夫を行う。

発表原稿が準備できたら、原稿を読んで時間を計測する。発表に当たっては、姿勢がよいこと、表情がよいこと、適度な緊張感があること、原稿から目を離して聴衆を見ながら話すことなどの態度に留意する。また、話し方として、適度な声の大きさと、滑舌よくメリハリを付けることや、話の間やスピードを考慮することが大切である。他の生徒の発表を聴く際には、発表者の方を向き、私語や居眠りなどは厳重に慎み、傾聴し共感する姿勢で参加した上で、メモを取りながら聴くことが大切である。発表後は、メモの内容を記録用紙に記入し、もっと詳しく聴きたい内容や、分からない用語などはそのままにしておかずに質問をすることも重要である。質問に対しては、質問者は利用者や実習施設について知らない状況であることを考慮し、できるだけ具体的に答えるようにする。

3 介護実習Ⅱのまとめと報告書作成

1 介護実習の記録用紙の提出

【提出する記録用紙】

- (1) 介護実習オリエンテーション記録
- (2) 介護過程記録(1)～(3)
- (3) 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ
- (4) 介護実習項目チェックリスト
- (5) 介護実習記録（毎日の記録）

2 実習のまとめ

介護過程の展開を中心として介護実習での学びを整理し考察を深めるために、介護実習の記録用紙を振り返り、「介護実習Ⅱのまとめ」の用紙を作成する。

(1) 介護職員や他職種の業務と多職種協働

介護実習を通じて知った介護職員の業務や多職種の業務をまとめる。また、多職種協働について介護実習を通して聞いたり経験した内容を書く。また、そのことについて自分がどう感じたか、

考えたかについても書く。

(2) 生活支援技術に関する気づきや学び

実践した生活支援技術の中で、特に深く学ぶことができた支援内容について、指導を受けた内容や留意して取り組んだこと、また、自分の考察や感想を書く。

(3) 「介護過程」の展開を通しての考察や感想

担当の利用者の情報を ICF の視点に基づいて、整理と分析を行う。

介護過程の展開を振り返って、成果と課題について考察や感想をふまえてまとめる。

(4) 報告書のテーマとその理由

担当の利用者の介護過程の展開において、アセスメントや介護目標から、中心となるテーマを書く。「○○が課題になっている利用者に●●を目標に支援を行った。」のように中心となるテーマが決まったら、利用者の生活状況や思いなどから、なぜそのような考えたのか理由を記入する。

3 実習報告書の作成

タイトルを決め、介護過程の展開に沿って、「事例研究」としてまとめていく。

(1) タイトル

介護過程の中で中心となった課題がイメージできるタイトルを考える。「座位保持が困難なA利用者の安全と安楽に配慮した食事の支援のあり方について」のように、事例研究の目的や内容を表現したタイトルが望ましい。

(2) はじめに

タイトルに沿って問題意識や関心を持った理由について説明する。研究を通して明らかにしたいことや介護過程で取り組んだ結果の一部を簡潔に紹介する。

(3) 事例の概要

タイトルに関連した利用者の情報や内容を選択してまとめる。利用者の現在の状況(身体的・精神的・社会的側面)、生活歴などをまとめる。利用者を特定できないよう、地域・施設名・名前は匿名にする。年齢は「○歳代や○歳代後半」と表記してもよい。経済状態などプライバシーに触れる内容や事例研究に必要な情報は省く。

(4) 介護過程の展開

情報収集した内容をICFに基づき整理する。介護目標、介護計画、計画の実施、評価の内容を整理し、事実や利用者の反応などをまとめる。5W1Hを意識し、具体的にわかりやすくまとめる。介護計画が達成できたかどうかの評価とその理由を整理して書く。

(5) 考察

(4)の結果を分析し、その原因などを考察する。介護過程の展開を通してわかったことや気づいたことをまとめ、介護の現場で学んだことを、自分自身の考えだけでなく、教科書や参考資料を使って確認し、根拠を持ったまとめとする。

(6) まとめ

今回の報告書の作成を通して学んだことや明らかになったことをまとめ、今後その学びをどのように生かしていきたいかについて、解決すべき課題等をふまえて書く。また、「はじめに」に対応しているかを検証する。

(7) 引用文献・参考文献

介護実習壮行会 介護実習Ⅰ 有田中央高等学校 2年 氏名： _____

【介護実習目標】

【目標を達成するために努力したいことや抱負】

【他の生徒の発表内容で参考になったこと】

介護実習壮行会 介護実習Ⅱ 有田中央高等学校3年 氏名： _____

【介護実習目標】

<hr/> <hr/> <hr/>

【目標を達成するために努力したいことや抱負】

<hr/>

【他の生徒の発表内容で参考になったこと】

<hr/>

実習生個人票

【2 学年】

【実習生徒】 有田中央高等学校 2 学年 ふりがな 氏 名		
【施設までの交通手段と所要時間】		
【福祉を学ぶ理由】	【趣味・特技】	
【高校生活で頑張っていること】	【自分の長所】	
【介護施設等の体験】		
【今年度の介護実習先】		
【介護実習 I の抱負】		

実習生個人票【3学年】

【実習生徒】 有田中央高等学校 3学年 ふりがな 氏名		
【施設までの交通手段と所要時間】		
【福祉を学んで考えたことや感想】	【趣味・特技】	
【高校生活で頑張っていること】	【自分の長所】	
【昨年度の介護実習先】		
【介護実習Ⅰで学んだこと】		
【介護実習Ⅱの抱負】		

介護実習オリエンテーション記録

有田中央高等学校 年 氏名：

介護実習A~C

【施設名】	【施設の種類】	
【施設長名】 様	【実習担当者名】 様	
【所在地】 〒	【TEL】	
【施設の沿革・基本理念・方針および役割】	【施設の一日の流れ】	
	期	業務内容
【利用者の状況・人数・活動内容など】	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
【組織・職員の構成・役割】	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
【施設と地域との連携した取り組み・交流している事例】	【週間予定】	
	【年間行事】	
	月	
	火	
	水	
	木	
	金	
	土	
日		

レクリエーション実施計画書 有田中央高等学校 年 氏名：

【施設名】		
【レクリエーションのタイトル】		
【予定参加人数】	【目安所要時間】	【レイアウト・配置】
【実施予定日時】	【場所】	
【対象者】		
【目的・ねらい】		
【レクリエーション内容】（方法）		
【準備物】	【注意事項】（安全面など）	

中間カンファレンスのまとめ

有田中央高等学校2年

氏名： _____

施設名

【介護実習で学んだこと】

【介護実習でうまくいかなかったことやその理由】

【介護実習に関して疑問に思うこと】

【利用者の生活支援技術について気づいたこと】

【実習目標の達成に向けて努力していることやこれから努力したいこと】

最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ

有田中央高等学校 年 氏名： _____

施設名

【介護実習目標】

【目標を達成するために努力したこと】

【目標の達成状況】

【利用者の生活支援技術についてのまとめ】

【今後の課題や抱負】(今回の介護実習での学びを, 今後どのように生かしたいか)

最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ

有田中央高等学校 年 氏名： _____

施設名

【介護実習目標】

【目標達成に向けて取り組んだこと】

【目標の達成状況】

介護実習項目チェックリスト 有田中央高等学校

介護実習A～C

施設名 () 年 氏名 ()

実施回数を「正」の字で書く。

見学：実習指導者の介護内容を見学する。

指導下実施：実習指導者とともに実施する。

実施：実習指導者の見守りのもとで実施する。

	項目	見学	職員と一緒に実施	職員の見守りで実施
環境	環境整備・清掃			
	ベッド・メーカー シーツ交換			
食事	準備・後始末			
	全面・部分介助			
	水分摂取介助			
	経管栄養			
排泄	トイレ誘導介助			
	ポータブルトイレ介助			
	尿・便器の介助			
	浣腸・摘便			
	ストーマの管理			
	おむつ交換			
身 じ た く	パジャマ交換			
	かぶり式衣服交換			
	洗面			
	爪切り			
	髭そり			
	口腔ケア			
	義歯のケア			
	整髪			

	項目	見学	職員と一緒に実施	職員の見守りで実施
清潔	洗髪			
	入浴（一般浴）			
	入浴（機械浴）			
	シャワー浴			
	清拭			
	手浴			
	足浴			
	陰部清拭・洗浄			
安楽 ・ 移乗 ・ 移動	安楽な体位の工夫			
	体位変換			
	ベッドと車いすの移乗			
	ベッドとポータブルトイレの移乗			
	車いすと便座の移乗			
	車いす介助			
	杖歩行介助			
	歩行器歩行介助			
家事 ・ その他	調理			
	洗濯			
	レクリエーション			
	買い物介助			
	散歩介助			
	体温・血圧測定			
	喀痰吸引			

介護過程記録 No2 アセスメントシート 有田中央高等学校 3年 氏名 ()

項目	現在の状況	要因	状況の詳細	本人の思い
移動	室内 移動			
	屋外 移動			
食事	食事 内容			
	食事 摂取			
排泄	排尿・ 排便			
	排泄 動作			
口腔	口腔 衛生			
	口腔 ケア			
入浴	入浴			
	更衣			
身だしなみ	身だしなみ			
	髪			
状態の把握	状態の把握			
	コミュニケーション 能力			
認知機能	認知機能			
	対人関係			
アセスメント				
【情報の弊害・関連づけ・統合化】				
1				
【課題】				
2				
【課題】				
3				
【課題】				
4				
【課題】				

介護目標	(月・日) 介護計画	(月・日) 実施	(月・日) 評価

介護目標	(月・日) 介護計画	(月・日) 実施	(月・日) 評価

介護過程の振り返り

<p>【情報収集について】</p>	<p>【介護目標と介護計画について】</p>
<p>【情報分析と課題について】</p>	<p>【実施と評価について】</p>

介護実習出席簿（2年）

介護実習A・B

和歌山県立有田中央高等学校	氏名				
実習施設名	実習期間				
	令和	年	月	日()	～
	令和	年	月	日()	

日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					

出席日数 日間 実習時間合計 時間

実習指導者印

介護実習出席簿（3学年）

介護実習C

和歌山県立有田中央高等学校	氏名	
実習施設名	実習期間	
	令和 年 月 日() ~	
	令和 年 月 日()	

日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					
日付	/	/	/	/	/
印					

出席日数 _____ 日間 実習時間合計 _____ 時間

実習指導者印

介護実習 I 評価表

介護実習A・認知症対応型老人共同生活援助事業

学校名	和歌山県立有田中央高等学校	氏名		学年	2学年
施設名		実習期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日 (日間)		

該当する箇所の□にレをつけてください。

評価項目	観点 A(よくできた)	観点B(おおむねできた)	観点C(努力が必要)
認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解を深める	<input type="checkbox"/> 認知症対応型老人共同生活援助事業所の役割や業務を理解している。	<input type="checkbox"/> 認知症対応型老人共同生活援助事業所の役割や業務をおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解がほとんどできていない。
利用者の生活や生活課題を理解する	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況をよく把握し、生活支援の必要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況を把握や生活支援の必要性をおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況や生活支援の必要性をほとんど理解していない。
利用者と適切にコミュニケーションを図る	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーションを実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションをおおむね実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者とは話しはしているが、利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションになっていない。
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する	<input type="checkbox"/> 利用者にあった適切な生活支援の方法を理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者にあった生活支援の方法をおおむね理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者にあった生活支援の方法について、理解や実践ができていない。
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを理解する	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりを理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをほとんど理解していない。
介護福祉士としての基本的な態度を身につける	<input type="checkbox"/> 実習生としてふさわしい身だしなみや言葉遣いであり、マナーが守れ、積極的に行動している。	<input type="checkbox"/> 身だしなみや言葉遣い等は意識しているが、あいさつなどの声が小さかったり、積極的でない場面がある。	<input type="checkbox"/> 身だしなみ、言葉遣い及びマナーが十分に意識できておらず、積極性も不足している。

総括コメント

上記の通り評価します。

令和 年 月 日

実習指導者名

印

介護実習 I 評価表

介護実習A・通所介護

学校名	和歌山県立有田中央高等学校	氏名		学年	2学年
施設名		実習 期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日 (日間)		

該当する箇所の□にレをつけてください。

評価項目	観点 A(よくできた)	観点B(おおむねできた)	観点C(努力が必要)
通所介護事業所に対する理解を深める	<input type="checkbox"/> 通所介護事業所の役割や業務を理解している。	<input type="checkbox"/> 通所介護事業所の役割や業務をおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 通所介護事業所に対する理解がほとんどできていない。
利用者と適切にコミュニケーションを図る	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーションを実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションをおおむね実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者と話しはしているが、利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションになっていない。
集団援助と個別援助のあり方を理解する	<input type="checkbox"/> レクリエーション援助において、適切な支援を実践している。	<input type="checkbox"/> レクリエーション援助において、おおむね支援を実践している。	<input type="checkbox"/> レクリエーション援助において、ほとんど支援を行っていない。
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する	<input type="checkbox"/> 利用者に合った適切な生活支援の方法を理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者に合った生活支援の方法をおおむね理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者に合った生活支援の方法について、理解や実践ができていない。
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりについて理解する	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりを理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをほとんど理解していない。
介護福祉士としての基本的な態度を身につける	<input type="checkbox"/> 実習生としてふさわしい身だしなみや言葉遣いであり、マナーが守れ、積極的に行動している。	<input type="checkbox"/> 身だしなみや言葉遣い等は意識しているが、あいさつなどの声が小さかったり、積極的でない場面がある。	<input type="checkbox"/> 身だしなみ、言葉遣い及びマナーが十分に意識できておらず、積極性も不足している。

総括コメント

上記の通り評価します。

令和 年 月 日

実習指導者名

印

介護実習 I 評価表

介護実習B

学校名	和歌山県立有田中央高等学校	氏名		学年	2学年
施設名		実習 期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日 (日間)		

該当する箇所の□にレをつけてください。

評価項目	観点 A(よくできた)	観点B(おおむねできた)	観点C(努力が必要)
介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設に対する理解を深める	<input type="checkbox"/> 介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設の役割や業務を理解している。	<input type="checkbox"/> 介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設の役割や業務をおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設に対する理解が十分でない。
利用者の生活や生活課題を理解する	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況をよく把握し、生活支援の必要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況を把握や生活支援の必要性をおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況や生活支援の必要性をほとんど理解していない。
利用者と適切にコミュニケーションを図る	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながる適切なコミュニケーションを実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションをおおむね実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者と話しはしているが、利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションになっていない。
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点からふまえた生活支援技術を実践する	<input type="checkbox"/> 利用者に合った適切な生活支援の方法を理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者に合った生活支援の方法をおおむね理解して実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者に合った生活支援の方法について、理解や実践ができていない。
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを理解する	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりを理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをおおむね理解している。	<input type="checkbox"/> 介護福祉士の役割や他の職種の業務、地域とのつながりをほとんど理解していない。
介護福祉士としての基本的な態度を身につける	<input type="checkbox"/> 実習生としてふさわしい身だしなみや言葉遣いであり、マナーが守れ、積極的に行動している。	<input type="checkbox"/> 身だしなみや言葉遣い等は意識しているが、あいさつなどの声が小さかったり、積極的でない場面がある。	<input type="checkbox"/> 身だしなみや言葉遣い及びマナーが十分に意識できておらず、積極性も不足している。

総括コメント

上記の通り評価します。

令和 年 月 日

実習指導者名

印

介護実習Ⅱ評価表

介護実習 C

学校名	和歌山県立有田中央高等学校	氏名		学年	3学年
施設名		実習期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日 (日間)		

該当する箇所の□にレをつけてください。

評価項目	観点 A(よくできた)	観点B(おおむねできた)	観点C(努力が必要)
傾聴・受容・共感の技法を用いて、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを図る	<input type="checkbox"/> 傾聴・受容・共感の技法を活用し、利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションを実践している。	<input type="checkbox"/> 傾聴・受容・共感の技法を部分的に活用し、おおむね利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションを実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者と話しはしているが、利用者の安心感・信頼感につながるコミュニケーションが実践できていない。
安全と安楽、個性の尊重、および自立支援の観点をふまえた生活支援を実践する	<input type="checkbox"/> 利用者の個性をふまえた適切な生活支援を実践している。	<input type="checkbox"/> おおむね利用者の個性をふまえた生活支援を実践している。	<input type="checkbox"/> 利用者の個性をふまえた適切な生活支援を実践していない。
一人の利用者についてICFの視点で全体像をとらえ、アセスメントを行う	<input type="checkbox"/> ICFの視点で、利用者の生活の全体像をよく把握し、生活支援の必要性を理解している。	<input type="checkbox"/> ICFの視点で、利用者の生活の全体像をおおむね把握し、十分ではないが生活支援の必要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 利用者の生活の状況や生活支援の必要性を理解していない。
個性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案する	<input type="checkbox"/> 個性の尊重や自立支援の観点をふまえ、具体的な介護計画を立案している。	<input type="checkbox"/> 個性の尊重や自立支援の観点をおおむねふまえ、介護計画を立案している。	<input type="checkbox"/> 個性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案していない。
介護計画に基づき、適切に生活支援の実践、評価および修正を行う。	<input type="checkbox"/> 介護計画に基づいた生活支援を実践し、評価や介護過程の修正を行っている。	<input type="checkbox"/> 介護計画に基づいた生活支援をおおむね実践し、評価を行っている。	<input type="checkbox"/> 介護計画に基づいた適切な生活支援の実践や、評価を行っていない
多職種との協働を図る。	<input type="checkbox"/> 介護過程の展開において、他の専門職と協働している。	<input type="checkbox"/> 介護過程の展開において、十分ではないが他の専門職と協働している。	<input type="checkbox"/> 他の職種と関わることができていない。
介護福祉士としての基本的な態度を身につける	<input type="checkbox"/> 実習生としてふさわしい身だしなみや言葉遣いであり、マナーが守れ、積極的に行動している。	<input type="checkbox"/> 身だしなみや言葉遣い等は意識しているが、あいさつなどの声が小さかったり、積極的でない場面がある。	<input type="checkbox"/> 身だしなみ、言葉遣い及びマナーが十分に意識できておらず、積極性も不足している。

総括コメント

上記の通り評価します。

令和 年 月 日

実習指導者名

印

健康チェックシート()月分

氏名()

日付	時	間	体	温	健康状態	自覚症状 (必ずどこかに○をつけること)	行 動 履 歴	確認
1	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
2	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
3	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
4	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
5	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
6	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
7	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
8	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
9	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
10	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
11	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
12	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
13	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
14	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		
15	:		℃		良・悪	なし・頭痛・咽頭痛・咳・鼻水・嘔吐 倦怠感・その他()		

※ 毎朝必ず記入し、学校で確認印をもらうこと。実習期間中は保護者の確認印をもらうこと。

※ 学校に登校時や実習施設では、マスク装着・手洗いを徹底すること。

※ 検温時に37度以上の熱がある(平熱が37度の者は37.2度)場合、又は自覚症状がある場合は必ず、学校に連絡すること。

令和2年度実習先一覧

実習機関

令和2年8月20日（木）～8月31日（月）（8日間）（土・日を除く。）

令和2年9月1日（火）～9月10日（木）（8日間）（土・日を除く。）

令和2年9月11日（金）～9月24日（木）（8日間）（土・日・祝を除く。）

実習施設・電話番号・担当教員一覧

施設名	住所	電話番号	備考
特別養護老人ホームM			
Yグループホーム			
Yデイサービスセンター			
Kデイサービスセンター			
グループホームK			

実習配置

8月20日～8月31日	9月1日～9月10日	9月11日～9月24日	メンバー	
Yグループホーム	Yデイサービスセンター	特別養護老人ホームM	A	B
Yデイサービスセンター	Yグループホーム	特別養護老人ホームM	C	D
グループホームK	特別養護老人ホームM	Kデイサービスセンター	E	F
Kデイサービスセンター	特別養護老人ホームM	グループホームK	G	H
特別養護老人ホームM	グループホームK	Yデイサービスセンター	I	J
特別養護老人ホームM	Kデイサービスセンター	Yグループホーム	K	

介護実習に必要なもの

実習服・実習靴・白ソックス	《その他必要なもの》
体操服（半袖・ハーフパンツ）	
筆記用具・メモ帳・介護実習ファイル	
印鑑	
お弁当・お茶	
ハンカチ・ちり紙・タオル・マスク 健康チェックシート	

実習時間

開始	8時 30分	～	終了	16時 30分
----	--------	---	----	---------

介護実習 I のまとめ

2学年 氏名 ()

1 介護職員や他職種の業務と多職種協働

① []

② []

③ []

5 考察を深めたいテーマとその理由

2学年

氏名(

)

テーマ

理由

介護実習 I 報告書

実習施設名 ()

和歌山県立有田中央高等学校 2学年 氏名()

1 タイトル

--

2 はじめに(タイトルの設定理由やテーマ)

3 利用者の状況

4 介護実習先での生活支援技術

5 考察

6 引用・参考文献

2 3学年の発表

名前	参考になったこと	質問

3. 全体を通しての感想

--

